

OXIDE

株式会社オキサイド

事業計画及び成長可能性に関する事項

2026年5月

東証グロース:6521

豊かな未来を 光の技術で実現する

目次

OXIDE

- 01.** 企業情報
- 02.** 2026年2月期振り返り 2027年2月期注力分野
- 03.** 事業の概要 半導体・ヘルスケア・新領域
- 04.** サステナビリティ
- 05.** 財務・リスク情報



01. 企業情報

山梨県の小淵沢にあった小さなプレハブ小屋。
そこが私たちの始まりでした。

会社概要(2026年2月28日現在)

OXIDE

設立

2000年10月

本社所在地

山梨県北杜市武川町牧原1747番地1

従業員数

312名※1

資本金

34億13百万円

主な株主

KLA、NTT-AT、ニコン、レーザーテック、島津製作所

売上高※2

100億40百万円

売上高 海外比率※2

90%以上

研究開発費 売上高比率※2※3

12%

設備投資費※2

4億67百万円

自己資本比率※2

32%

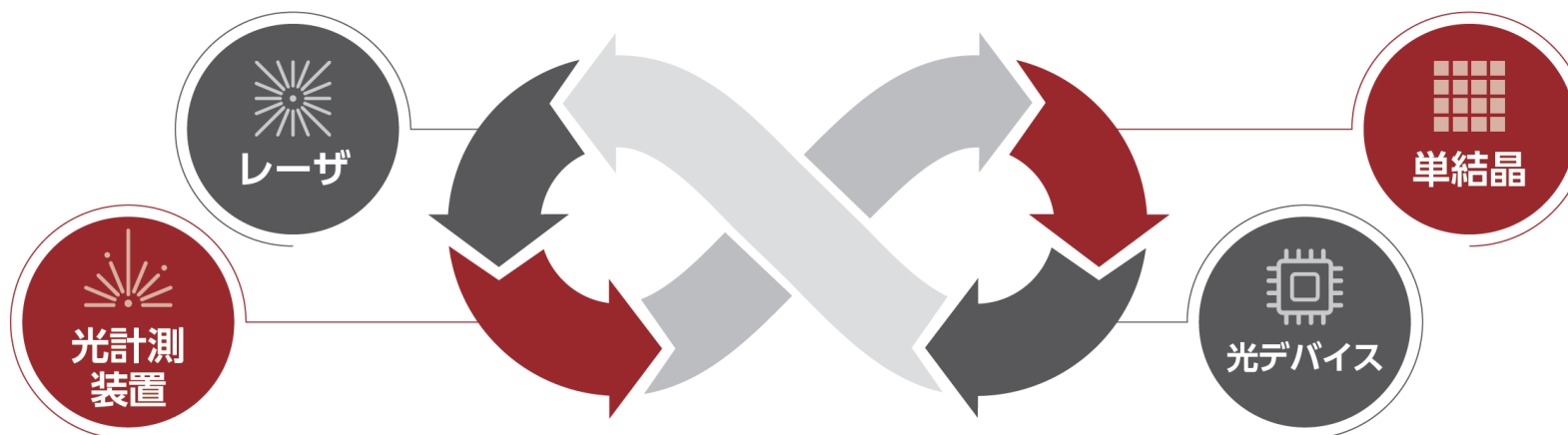
※1 連結従業員数

※2 2026年2月期通期実績

※3 研究開発費は12億3百万円

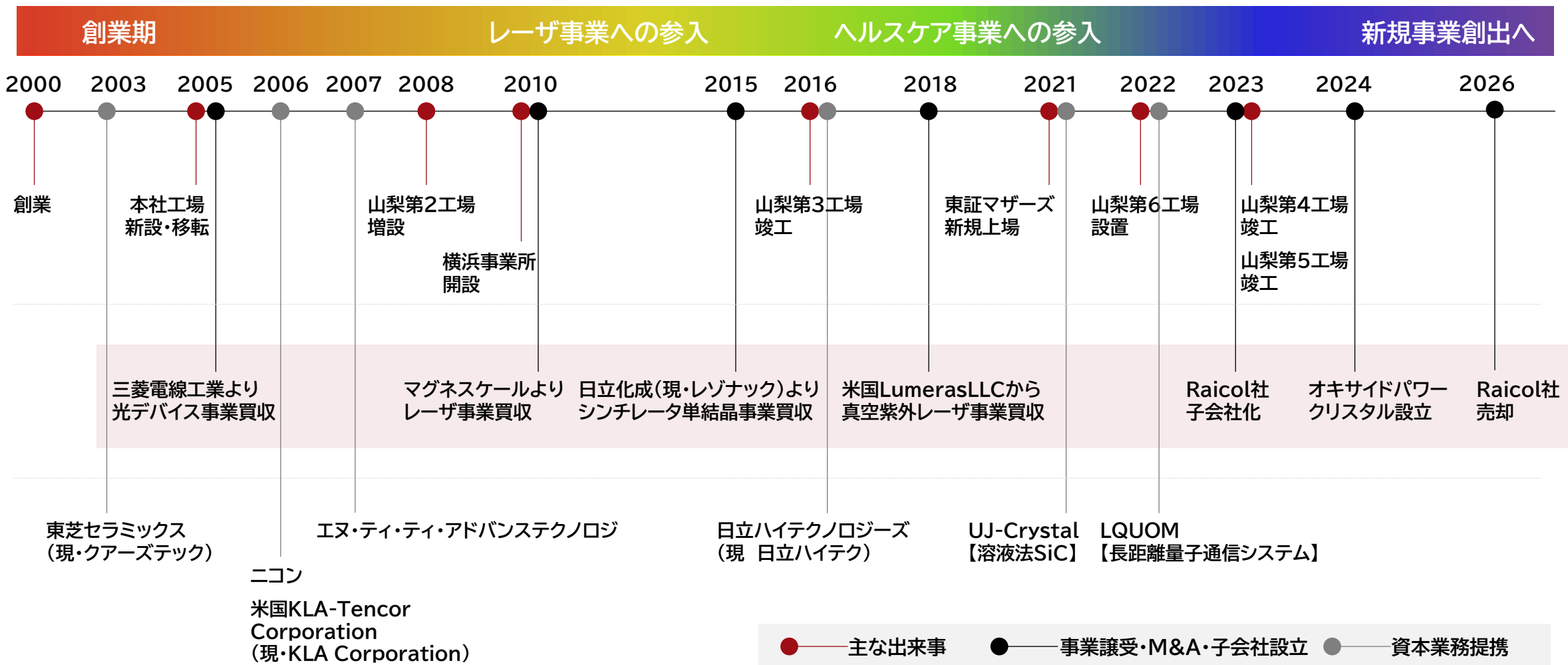
当社は**単結晶・レーザ**のグローバルニッチトップカンパニーを目指します

- 研究成果を社会に還元し、**キーマテリアル**を世界に向けて発信する
- 顧客へ**マテリアルソリューション**を提供し、社会の発展に貢献する
- 単結晶を核とした製品を開発し、**未来の市場機会**を創造し続ける



沿革

■ 単結晶の製造技術をコアに製品開発を進めながら、事業譲受やM&Aを通して新たな技術を獲得してきました。



マネジメント・メンバー 2026年5月29日時点予定※



代表取締役 上級執行役員CEO
古川 保典
工学博士

2000年10月 当社創業
(主な経歴)
独立行政法人物質・材料研究機構



代表取締役 上級執行役員COO
山本 正幸

(主な経歴)
(株) 商工組合中央金庫



取締役 上級執行役員CTO
藤浦 和夫
工学博士

(主な経歴)
日本電信電話(株)



取締役 上級執行役員CSO
内田 誠二

(主な経歴)
シティグループ証券(株)

上級執行役員CTO
石橋 浩之
理学博士

(主な経歴)
日立化成(株)

上級執行役員レーザ事業部長
岡 直哉

(主な経歴)
ソニーマニファクチュアリングシステムズ(株)

上級執行役員CFO
竹内 健吾

(主な経歴)
ルネサス エレクトロニクス(株)

社外取締役
為近 恵美

社外取締役
Gareth C.W. Jones

社外取締役
小池 美和

常勤監査役
吉田 貴

非常勤監査役
小坂 義人

非常勤監査役
田中 良幸

Raicol社株式譲渡について

- 2026年2月、地政学リスク軽減と財務改善を目的にRaicol社の全株式を譲渡し非連結化しました。
- 一部事業協業は継続し、収益機会は確保します。

株式譲渡に至るポイント

地政学リスク軽減

先行き不透明な中東情勢への対応

- ・ 2023年10月にイスラエルで紛争が発生
- ・ 一部地域におけるイスラエル製品不買運動もあり売上の鈍化
- ・ 紛争の長期化に伴うイスラエル国内でのインフレ進行や材料費の高騰が影響し、収益性が悪化

事業ポートフォリオの組み換え

事業ポートフォリオを機動的に組み替え、経営資源を成長領域へ果敢に再配分

- ・ 成長が著しい量子・データセンター・パワー半導体・微細加工等の分野に注力

財務改善

非連結化がもたらすポジティブな影響

- ・ 負債の低減と自己資本比率の改善
(25年2月期末→26年2月期末:有利子負債約103億円→約75億円、自己資本比率29.7%→31.8%)
- ・ 収益悪化要因であったRaicol社を切り離すことで、営業利益率の向上

当社の成長に必要な協業関係継続

次世代半導体向け光学単結晶の独占供給合意

- ・ 半導体事業の競争力維持・向上に寄与

データセンター向け結晶育成炉の継続供給合意

- ・ 当社新領域事業の成長に寄与

OXIDE ビジョン

豊かな未来を光の技術で実現

OXIDEは、光の時代と言われる21世紀において社会・産業インフラを支えます。

半導体前工程:検出

微細化した回路の欠陥を高精度に検出することを可能にします。

半導体後工程:加工

先端パッケージングや微細加工を支えるレーザ技術が重要な役割を果たします。

ヘルスケア:診断

がん診断やアルツハイマー診断のPET装置をはじめとする高精度な診断を支えます。

量子:生成・制御

量子もつれ光子対の生成や制御により量子コンピュータや量子通信において重要な役割を果たします。

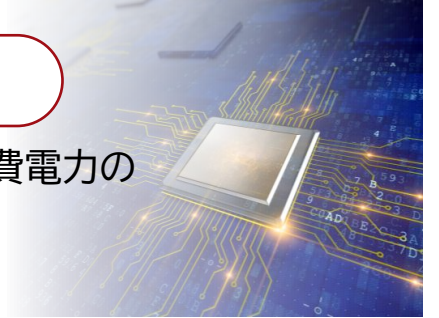
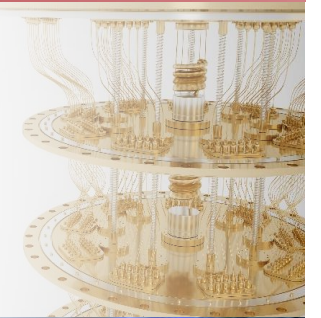
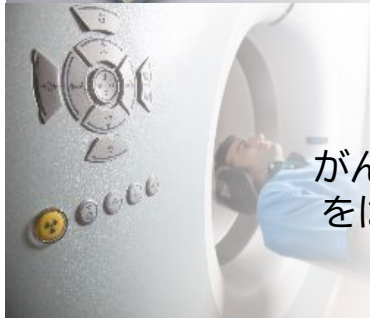
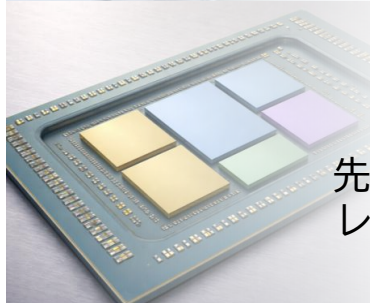
データセンター:通信

アイソレータなどのコア部品の供給を通じて高速・大容量通信を支えます。

光電融合:信号処理

TFLNなどの先端材料が高速・低消費電力の光信号処理を可能にします。

光の技術



創業以来培ってきたコア技術が、先端領域ビジネスへの新たな好機を拓きます

OXIDE



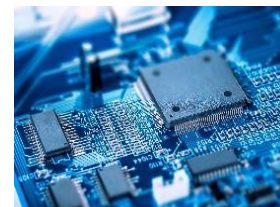
事業概要

- 20世紀が「電子の時代」であったとすれば、21世紀は「光の時代」と言われています。
- 当社の強みは、創業以来一貫して磨き続けてきた単結晶育成と波長変換のコア技術にあります。
- 光の技術は、半導体前工程の検査、半導体後工程の加工、ヘルスケア領域の診断、量子コンピュータや量子通信の量子もつれ光子対の生成と制御、データセンターの高速通信、光電融合による次世代信号処理といった、社会・産業インフラのあらゆる領域で不可欠な存在となっています。

単結晶



レーザー



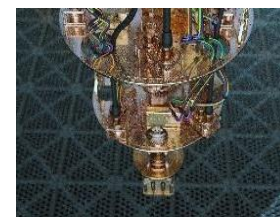
半導体事業

半導体ウエハ欠陥検査装置向け
単結晶・レーザーの製造



ヘルスケア事業

がん診断用PET検査装置向け単結晶の製造



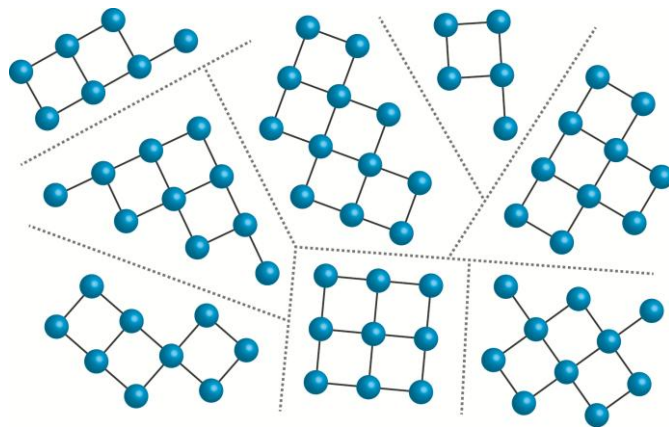
新領域事業

量子、データセンター、光電融合、微細加工、
パワー半導体など様々な分野へ展開

単結晶とは

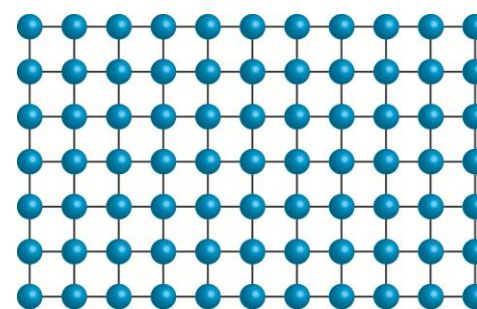
- 単結晶は、材料全体にわたって原子や分子が三次元的に規則正しく配列された物質です。
- 単結晶は不純物や欠陥が少なく物理的特性が均一なことから、優れた光学特性、電気特性、機械的特性を持ちます。このため、半導体、ヘルスケア、量子、データセンターなどの先端産業における重要な材料として用いられています。
- オキシドの単結晶は、光を透過し、光と相互作用するフォトニクス材料として使われます。

多結晶



多数の微小な結晶(粒)が集合した材料

単結晶



結晶全体にわたって原子が規則正しく配列



構造の違い

必要な性能と用途の違い

安価で一定の性能が要求される用途向け
(構造材、一般電子部品 等)

優れた光学特性、電気特性、機械的特性が要求される用途向け
(半導体/ヘルスケア/量子技術/データセンター 等)

レーザーとは

- レーザとは、「Light Amplification by Stimulated Emission of Radiation」の略で、電気や光のエネルギーで物質を励起し、波長・位相の揃った高品質な光(コヒーレント光)を発生させる装置です。
- 固体レーザーは、小型でありながら高出力かつ安定したレーザー発振が可能で、装置の高信頼化に適しているのが特徴です。

レーザーとは

①単色性

自然光(太陽光、蛍光灯)



さまざまな光が混ざり、
白色に見える

レーザー光



1つの色=波長
できている

+

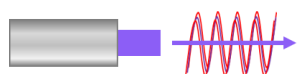
②指向性

自然光



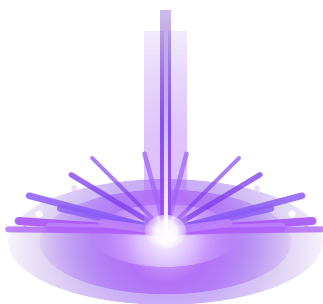
あらゆる方向に拡散して
広がる

レーザー光



まっすぐ同じ方向に進む

+ ③高エネルギー密度



レーザー光は、単色性と指向性により、非常に小さな点にエネルギーを集中

レーザーごとの比較

	固体レーザー	ガスレーザー	ファイバーレーザー	半導体レーザー
主な媒質	単結晶	ガス	光ファイバー	半導体
特長	高ピーク出力 超短パルス発生 高波長変換効率	高ビーム品質 高出力	高効率 高ビーム品質	小型・低コスト 高効率
主な用途	半導体検査 電子部品加工 量子応用・研究	材料・部品加工 医療用機器 半導体露光	材料・部品加工 手術・美容医療 精密計測・通信	光ファイバ・ データセンタ スマホセンサ

フォトニクス市場：市場規模と今後の成長予測

- フォトニクス部品は世界で約5兆7,000億円超※に達する巨大市場であり、単結晶やレーザはそのキーマテリアルです。
- このフォトニクス部品が、半導体・ヘルスケア・携帯・データセンター・量子・光電融合など、幅広い成長市場を支えています。

フォトニクス部品 世界市場規模※

約5兆7,000億円超

代表的なフォトニクス部品

光を発生する
LED、レーザ、有機EL、
蛍光体光源、その他

光を制御する
レンズ、フィルター、アイソレータ、
光変調器、波長変換素子、その他

光を検出する
フォトディテクタ、イメージセンサ、
シンチレータ、その他

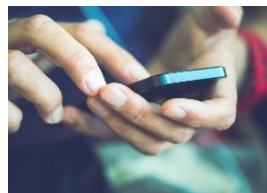
フォトニクス部品が支える市場



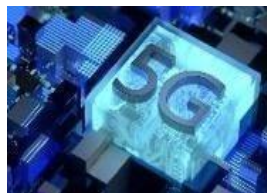
半導体 ▲
注力分野



ヘルスケア
注力分野



携帯



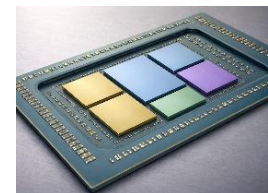
データセンター ▲
注力分野



量子コンピュータ ▲
量子通信 ▲
注力分野



モビリティ(車) ▲



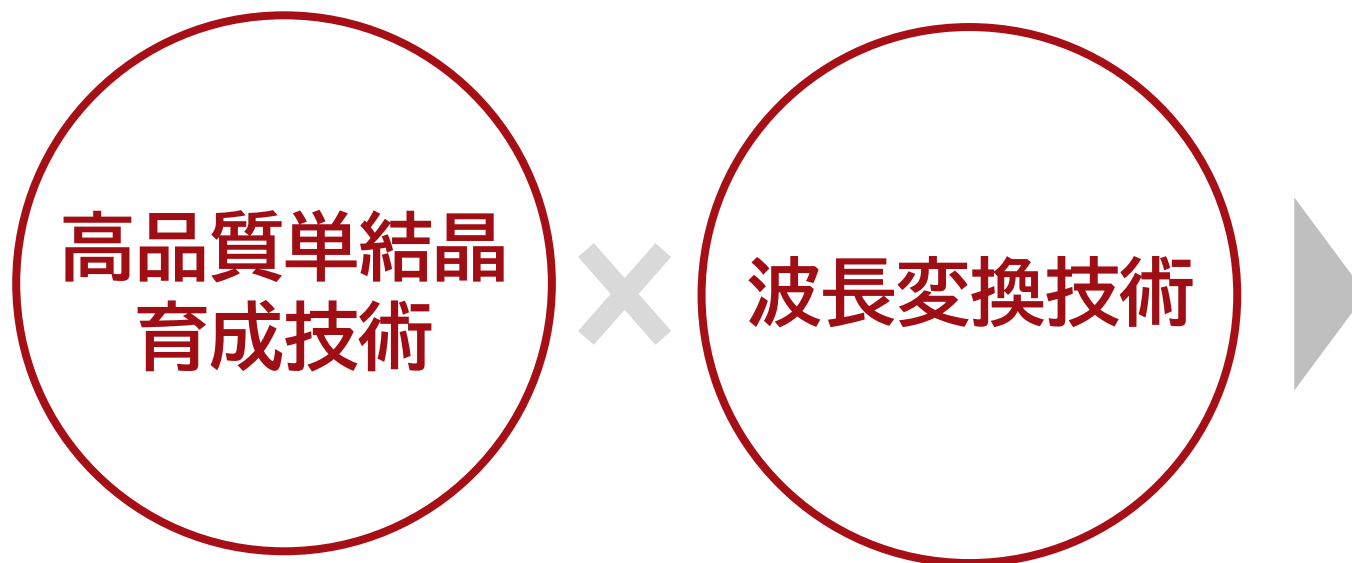
レーザ微細加工 ▲
注力分野



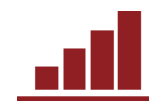
光電融合 ▲
注力分野

オキシドのコア技術

- 当社が有するコア技術は、高品質単結晶育成技術と波長変換技術です。
- 2つのコア技術は相互に強化し合い、単独では実現できない技術的競争優位性を形成しています。



OXIDEの競争優位性



波長変換特性の迅速な評価と高精度なフィードバックを実現



エンジニア間の密接な連携により、単結晶の組成・ドーピング※・結晶構造を用途起点で最適設計



単結晶を内製で育成することで光学特性のばらつきを抑え、安定したレーザ性能と再現性を実現

競争力の高い単結晶とレーザの創出に成功

オキシドのコア技術① 高品質単結晶育成技術

- 当社は創業以来、高品質な単結晶を作製するために、様々な育成技術を導入し、改良してきました。
- 多種の育成装置と育成ノウハウ等の組み合わせで、新材料の誕生や品質の向上が実現します。
- このコア技術が、世界最高水準の性能と長寿命を両立する高付加価値結晶の創出を支えています。

育成法	CZ法	FZ法	TSSG法	VB法	DCCZ法
装置					
結晶	 LGSO  TGG  GPS	 YIG  Nd:YVO ₄	 CLBO  KTN	 LB4  酸化ガリウム	 Mg:SLT  Mg:SLN

コア技術① 高品質単結晶育成技術：競争優位性

- 高品質単結晶育成の本質は「装置 × 手法 × 条件 × 経験知」が組み合わさった模倣困難なノウハウの集合体であり、競合他社が容易に再現できるものではありません。
- 当社はこのコア技術を、人材育成と技術継承、新材料開発、量産フィードバックの3つの取り組みにより、継続的に強化しています。

競争優位性

ブラックボックス性の高いノウハウ

- ・長年の試行錯誤+膨大な育成データの蓄積
- ・競合による製品分析でも、ノウハウ解析は不可能

世界有数の単結晶技術者の集積

- ・国内大手の事業再編を経て異分野の技術者が集結。多様な知見の融合が生む優れた新結晶開発力

半導体・ヘルスケア市場で鍛えられた品質力

- ・長期連続稼働・高い再現性が求められる半導体市場での実績
- ・厳格な検査・品質保証が必須なヘルスケア市場での実績

競争優位性の維持・強化

優秀な人材の採用・育成と技術継承

- ・優秀な人材の継続採用と暗黙知のデータ化により個人に依存しない組織的な技術力を構築

新材料や高品質単結晶への継続的な挑戦

- ・量子・光電融合・SiC等の先端材料分野において、世界最高水準の結晶品質をベースに、更なる高度化に向けた継続的な開発・改良を推進

量産フィードバックによる知見の蓄積

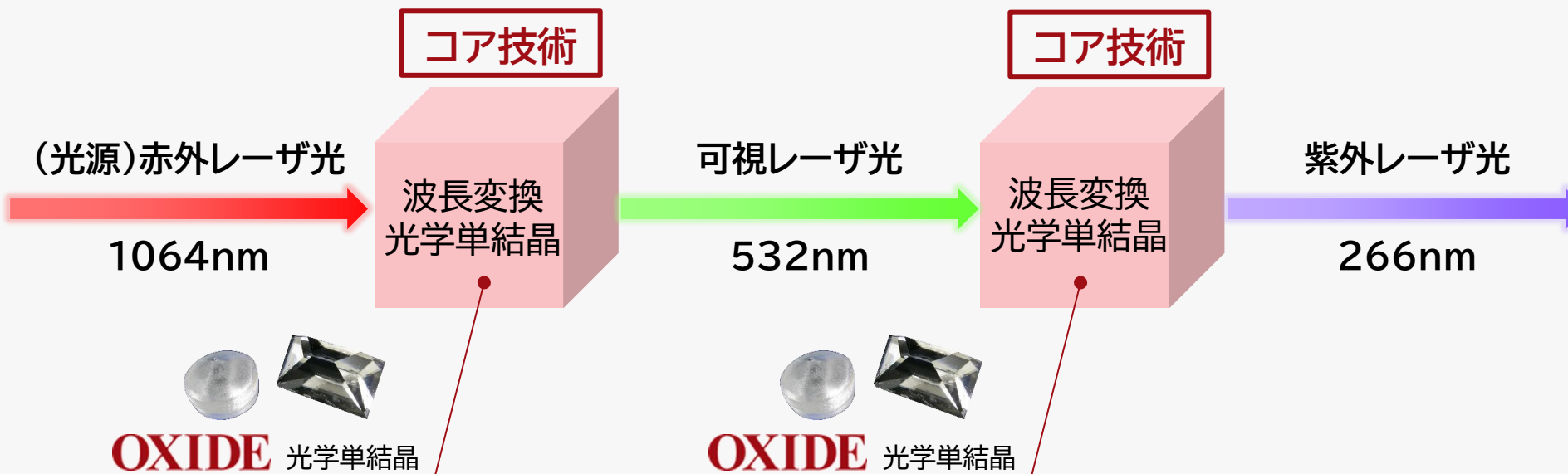
- ・実市場の長期量産でのみ得られる模倣困難な無形資産
- ・蓄積データを活用した機械学習、シミュレーション

オキシドのコア技術② 波長変換技術

- 波長変換とは、光の波長を変える技術です。
- 当社の深紫外レーザーは、光学単結晶製造・加工技術と結晶利用に関する知識・技術により、世界トップレベルの出力と長寿命を実現しています。

波長266nmを作る波長変換の例

1064nmの赤外レーザーを出発点として、光学単結晶による非線形光学効果を利用し、532nm、さらに266nmへと二段階で波長変換を行うことで、深紫外レーザーを生成しています。



コア技術②波長変換技術:競争優位性

- 波長変換技術の本質は「結晶育成 × 光学設計 × 実装 × 長期信頼性評価」が一体となった総合技術であり、理論や設計図のみでは再現できません。
- 当社はこのコア技術を、人材育成と技術継承、新波長と新用途展開、コア技術①単結晶育成技術との相互強化により、継続的に進化させています。

競争優位性

一貫した総合的な技術力

- ・単結晶育成・加工、レーザの光学設計・実装・信頼性評価までを社内一貫で実施

結晶・光学・レーザを横断する技術者の集積

- ・複合領域の技術者を一企業内に擁する、他社では類を見ない体制

半導体市場で実証された長期安定性

- ・劣化挙動・寿命データは実運用でしか蓄積できない模倣困難な知見

競争優位性の維持・強化

優秀な人材の採用・育成と技術継承

- ・単結晶特性～評価結果まで体系的に蓄積・共有

新波長・新用途への継続的展開

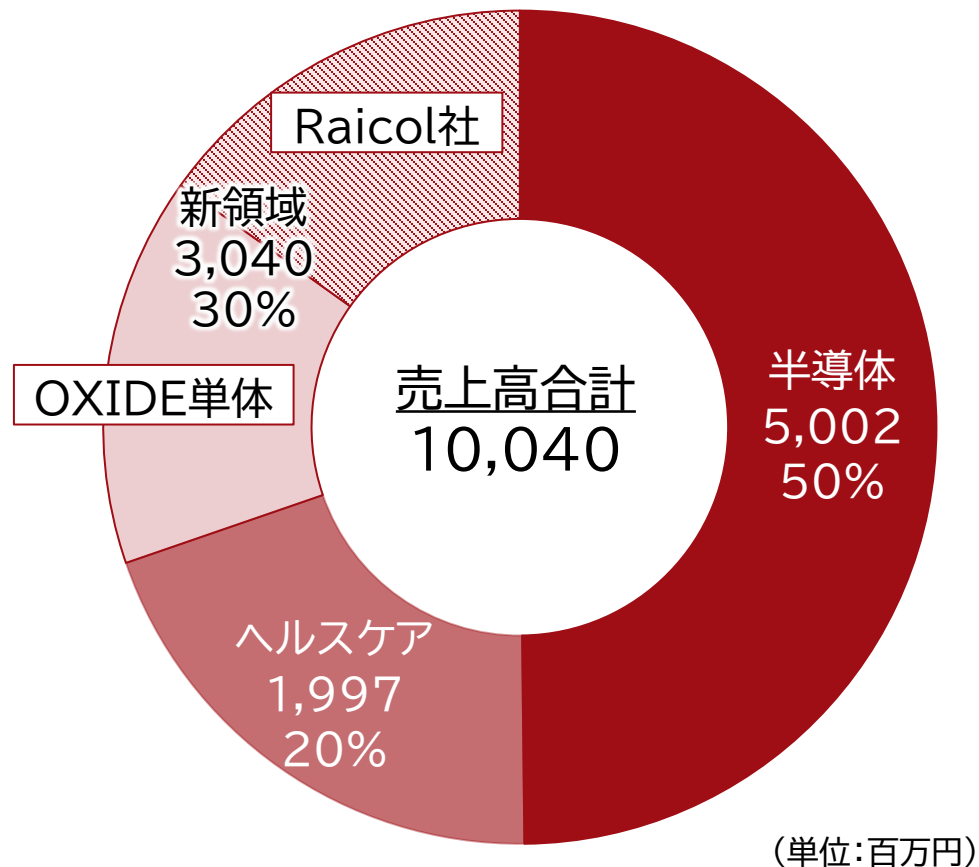
- ・半導体微細化・量子・光電融合など、新波長・新用途への挑戦が技術を進化させ優位性を拡大

コア技術①単結晶育成技術との相互強化

- ・迅速なフィードバックとエンジニア間の密接な連携により、独自性の高い高品質単結晶の育成を実現
- ・参入障壁の更なる向上に寄与

事業別売上高構成 2026年2月期

■ 事業別の売上高構成比は、半導体事業50%、ヘルスケア事業20%、新領域事業30%となりました。



	半導体事業 半導体ウエハ欠陥検査装置向け単結晶・レーザの製造・販売
	ヘルスケア事業 がん診断用PET検査装置向け単結晶の製造・販売
	新領域事業 量子・データセンター・パワー半導体など様々な分野へ展開

事業ポートフォリオ

- 半導体・ヘルスケアの既存分野がキャッシュ創出を担い、安定的な収益基盤を形成しています。
- 創出したキャッシュを、成長分野向け設備投資と、新規分野向け研究開発投資に振り分け、成長を加速しています。

	既存分野 (安定的な収益基盤)	成長分野 (主な設備投資対象)	新規分野 (主な研究開発投資対象)	単結晶・ デバイス レーザー
半導体	深紫外単結晶 ウエハ検査用深紫外レーザー 現行モデル 266nm ~3W	フォトマスク検査用深紫外レーザー 193nm ウエハ検査用深紫外レーザー 高出力モデル 266nm 8W~	回路パターンを高速・非破壊で 可視化するPEEM用深紫外レーザー 半導体後工程微細加工用 高パルス・ピコ秒/フェムト秒深紫外レーザー	
ヘルスケア	がん診断PET用 シンチレータ単結晶	次世代がん診断PET用 シンチレータ単結晶	アルツハイマー診断 頭部PET用 シンチレータ単結晶	
新領域	多種多様な産業向単結晶	データセンター アイソレータ用ファラデー回転子 量子用波長変換素子 量子もつれ光子対光源モジュール	光電融合用TFLN パワー半導体用SiC 量子コンピュータ用レーザー	

事業ポートフォリオ

- 市場環境の変化を捉えながら、事業ポートフォリオを機動的に組み替え、経営資源を成長領域へ果敢に再配分しています。
- Raicol社連結除外前後での事業ポートフォリオ組み換えが、当社の方針を体現しています。

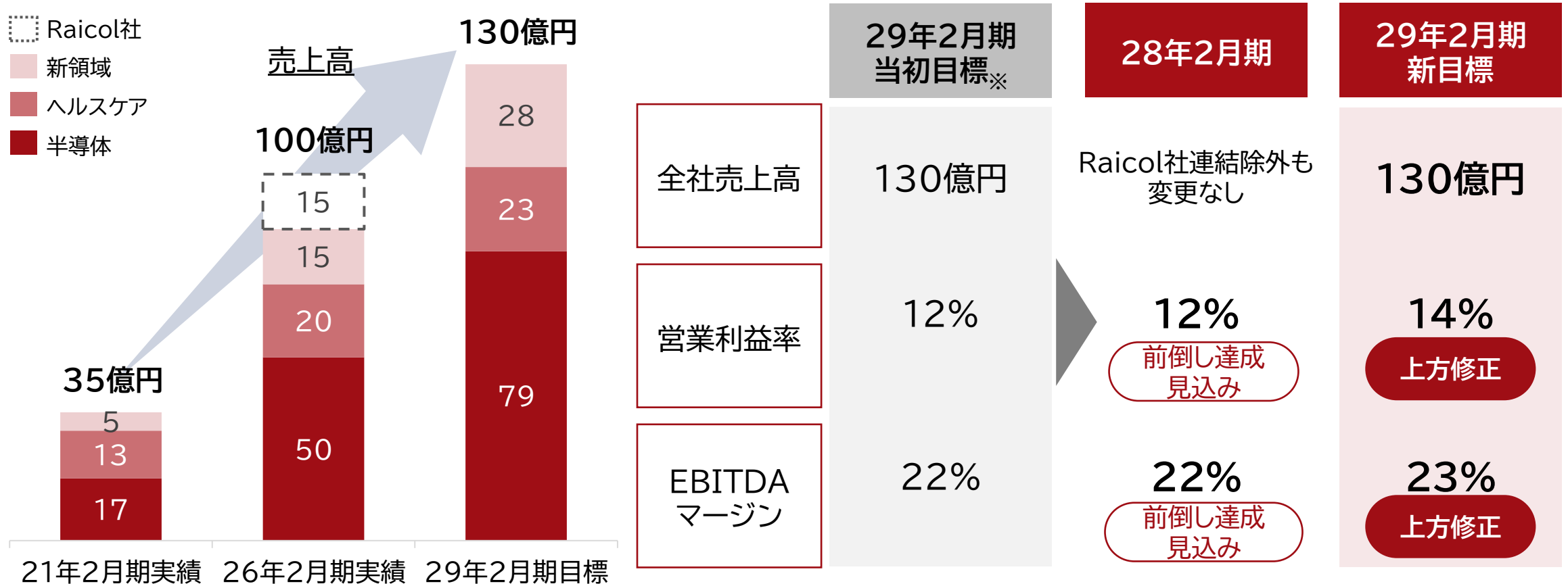


地政学リスクの影響で
連結除外

データセンター・パワー半導体・微細加工・光電融合を
新たな成長領域として、経営資源を再配分するとともに
量子分野は引き続き拡大を図る

中期経営目標

- Raicol社株式譲渡による売上高減少は、半導体および新領域の成長で補完し、2029年2月期の売上目標130億円を維持します。
- 営業利益率の当初目標は12%ですが、1年前倒して2028年2月期に達成予定です。このため、2029年2月期の目標値を上方修正し、14%といたします。EBITDAマージンも同様に上方修正し、23%といたします。





02. 2026年2月期 振り返り

2027年2月期 注力分野

2026年2月期 振り返り

■ 2026年2月期は、計画に掲げた重点施策を全事業区分で達成し、売上高・営業利益ともに通期予算を上回りました。また、Raicol社株式譲渡を完了し、財務体質が大幅に改善しました。

	計画(2025年4月開示)	2026年2月期 振り返り
半導体	<ul style="list-style-type: none">・拡大した製造キャパシティをメンテナンス需要拡大、新製品展開や他用途展開に活用	<ul style="list-style-type: none">・既存製品とメンテナンスの需要拡大に加えて、新製品の立ち上がりや次世代レーザの開発受託が売り上げに寄与
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">・高性能PET検査装置トップメーカーの新規顧客との取引を本格化	<ul style="list-style-type: none">・高性能PET検査装置トップメーカーを中心に、顧客の実需に基づく安定した出荷フェーズに移行
新領域	<ul style="list-style-type: none">・単結晶と深紫外レーザの新規用途への展開・量子分野における先端研究開発機関・事業会社との関係強化・溶液法SiCウエハの定常的なサンプル出荷と顧客でのデバイス評価加速	<ul style="list-style-type: none">・世界的なデータセンター需要の拡大を背景に、ファラデー回転子の出荷が増加・データセンター、量子、光電融合、微細加工の注力分野において新製品開発および業務提携を通じて事業を加速
コーポレート	<ul style="list-style-type: none">・中期経営目標達成に向けた財務体質強化	<ul style="list-style-type: none">・売上高および営業利益ともに通期業績予想を達成・Raicol社株式の譲渡により財務体質が大幅に改善

2027年2月期 注力分野

■ 既存分野が生み出すキャッシュを成長分野・新規分野へ再投資する成長サイクルと、中長期の企業価値向上に不可欠な財務規律の維持を両立します。

半導体

- ・既存製品に加えて、新製品(266nm高出力モデルやフォトマスク向け193nm)の販売拡大と増産対応
- ・メンテナンス事業のさらなる拡大による安定収益基盤の強化
- ・半導体後工程・光源融合を中心とする微細加工用レーザの開発と事業化
- ・PEEM(光電子顕微鏡)など半導体前工程の新規検査用途への展開加速

ヘルスケア

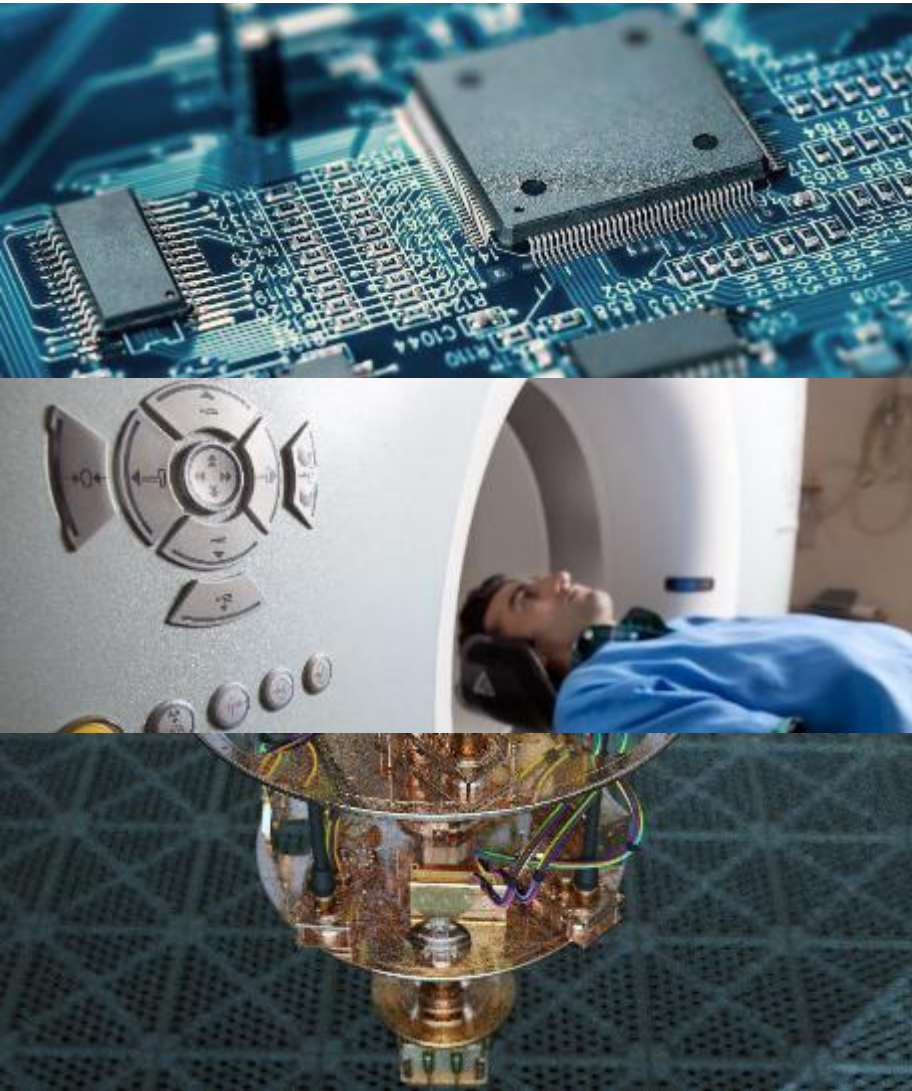
- ・主要顧客向けの安定出荷の継続
- ・頭部専用PET装置向けシンチレータ単結晶の試作・評価対応の推進

新領域

- ・データセンター向けファラデー回転子事業の拡大に向け、設備投資戦略の検討と実行
- ・戦略的パートナーシップを最大活用し、量子コンピュータ用レーザを始めとする量子関連事業を拡大
- ・光電融合や量子応用の新進展に貢献するTFLN等の先端材料開発を推進
- ・溶液法p型SiCウエハのデバイス評価加速と量産技術の確立

コーポレート

- ・中期経営目標の前倒し達成に向けた収益性向上
- ・成長分野と新規分野への戦略的投資と財務規律の両立



03. 事業の概要 半導体・ヘルスケア・新領域

半導体事業



半導体ウエハ検査装置メーカー向けの
単結晶・レーザの開発・製造・販売

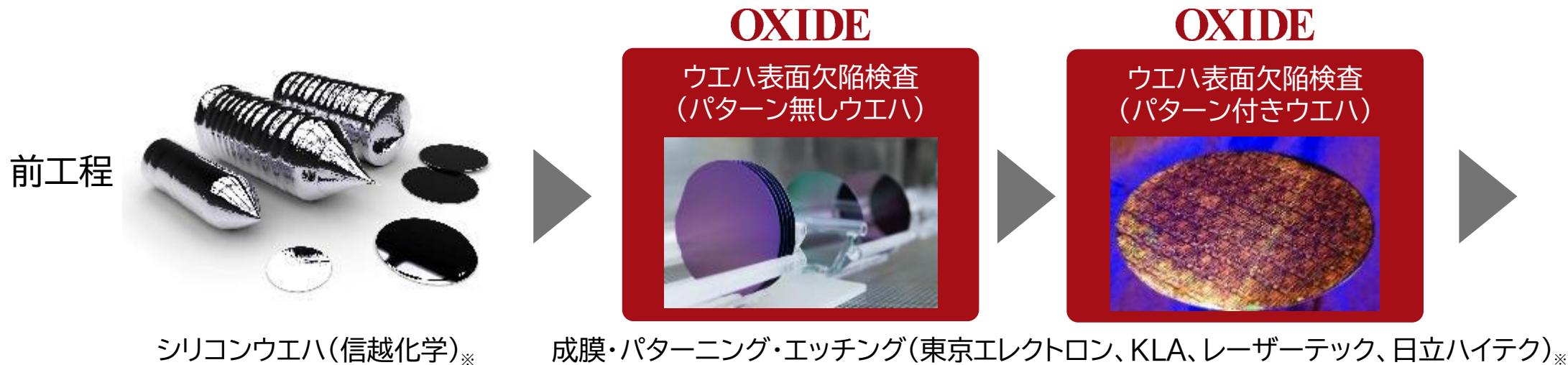


2026年度2月期
売上高
5,002百万円
売上高構成比
50%

半導体 | 半導体製造工程で活躍するオキサイド製品

OXIDE

- 当社の単結晶とレーザは、主に半導体製造工程(前工程)のウエハ表面欠陥装置で使われています。
- 当社製品の用途は、マスク検査など半導体前工程における他プロセスに拡大しています。



半導体 | ウエハ検査装置分野での高い市場シェア

OXIDE

- 半導体プロセスノード22nm以下のハイエンド半導体向け深紫外レーザーの需要が拡大しています。
- 高品質・長寿命な当社の深紫外用光学結晶と深紫外レーザーは、世界各地の半導体製造工場で使用されています。
- 当社は、「単結晶育成」「波長変換」のコア技術をベースに、単結晶及びレーザー製品のシェアを拡大してきました。



オキサイド製品



当社の深紫外レーザー用
波長変換単結晶
世界シェア>95%*



当社の深紫外レーザー製品
世界シェア>30%*



最先端半導体ウエハ
検査装置に採用

TSMC

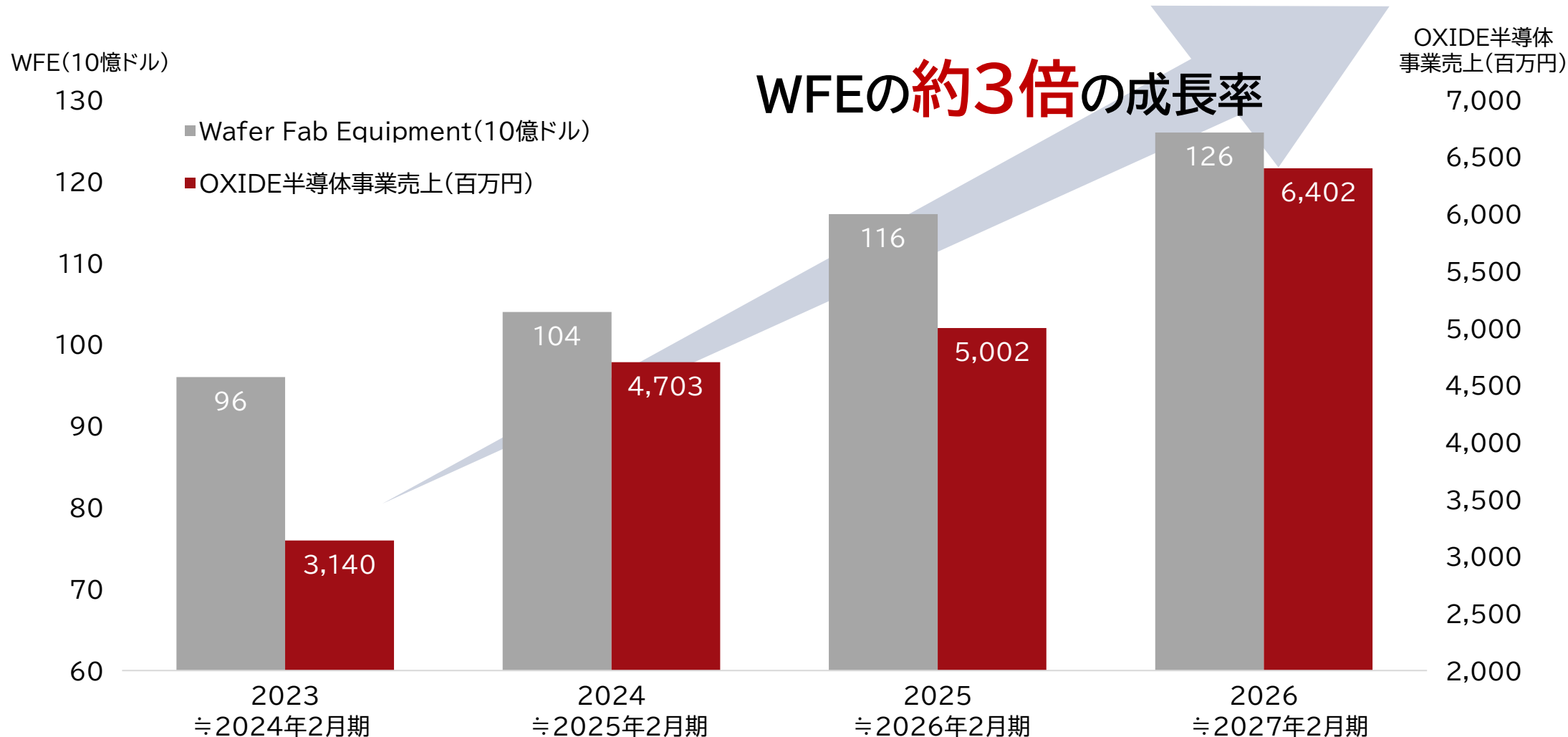
Intel

Samsung

世界有数の
半導体メーカーにて稼働中

半導体 | 市場環境

■ 2023年～2026年の4年間で、半導体製造装置(WFE)市場がCAGR 10%で拡大する中、当社半導体事業はその約3倍近いCAGR 27%成長と市場を大きくアウトパフォームしています。※



半導体 | 深紫外レーザー想定市場サイズ

- 当社の既存分野である半導体前工程ウエハ欠陥装置レーザー光源の市場規模は、約220億円と試算されます(SAM)。当社は現在、市場シェアを拡大しており、このSAMの中で約30%のシェアを有しています。*2
- 当社はフォトマスク検査や半導体後工程の微細加工分野へと事業領域を広げることで、ターゲット市場の拡大を図ります。

さらに拡大

TAM

約1,500億円*1

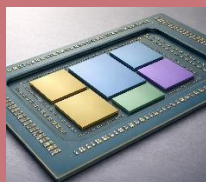
半導体市場の深紫外レーザー市場

①②③

中期ターゲット

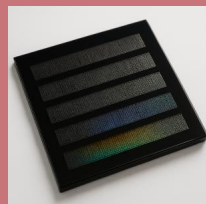
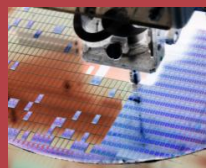
③微細加工用
レーザー市場

③フォトマスク検査
装置用レーザー市場



SAM

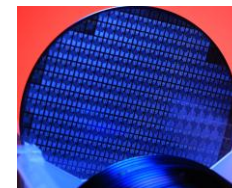
約220億円*2



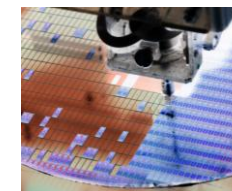
当社シェア
約30%

②ウエハ欠陥
検査装置用
深紫外レーザー市場

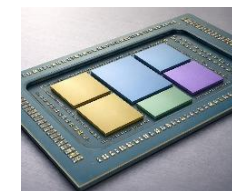
半導体市場の深紫外レーザー用途



①半導体露光用
ArF/KrFレーザー光源



②半導体前工程
ウエハ欠陥検査用
レーザー光源



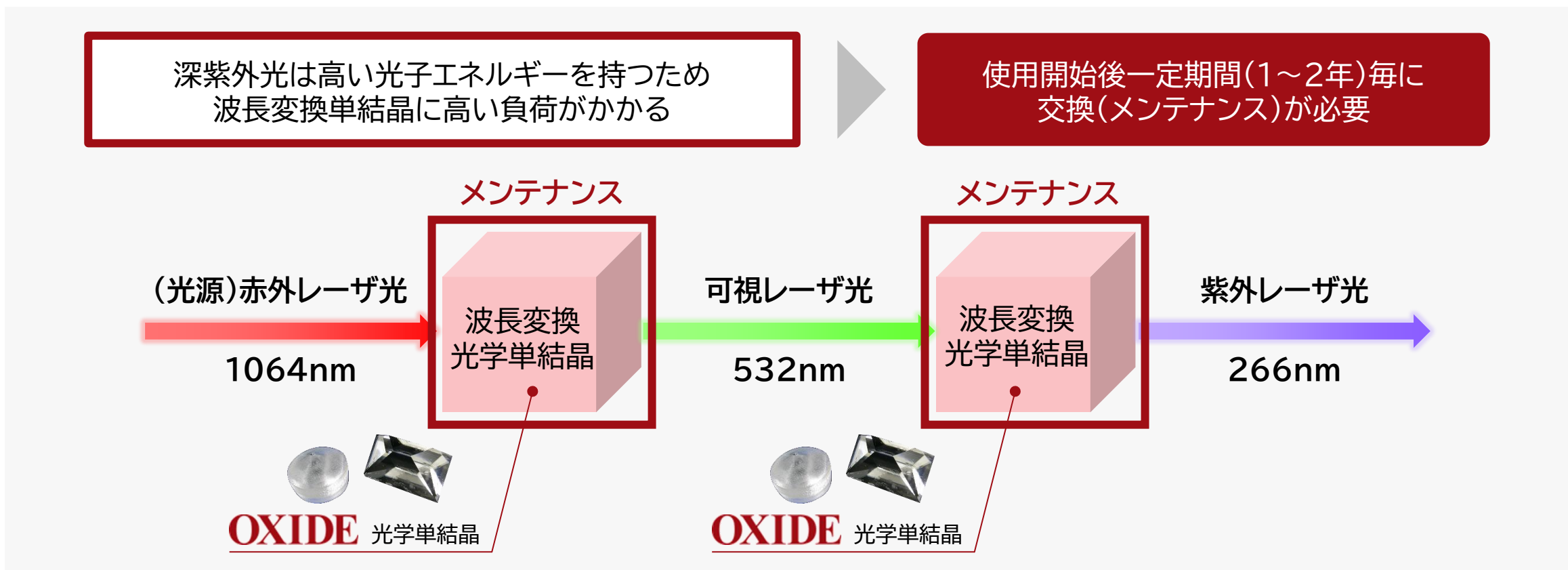
③微細加工用レーザー光源
③フォトマスク検査装置用
レーザー光源

*1出典:<https://www.gii.co.jp/report/qyr1867413-global-duv-lasers-market-research-report.html>

*2各種マーケットデータと顧客情報を基にして当社試算

半導体 | レーザ製品メンテナンス

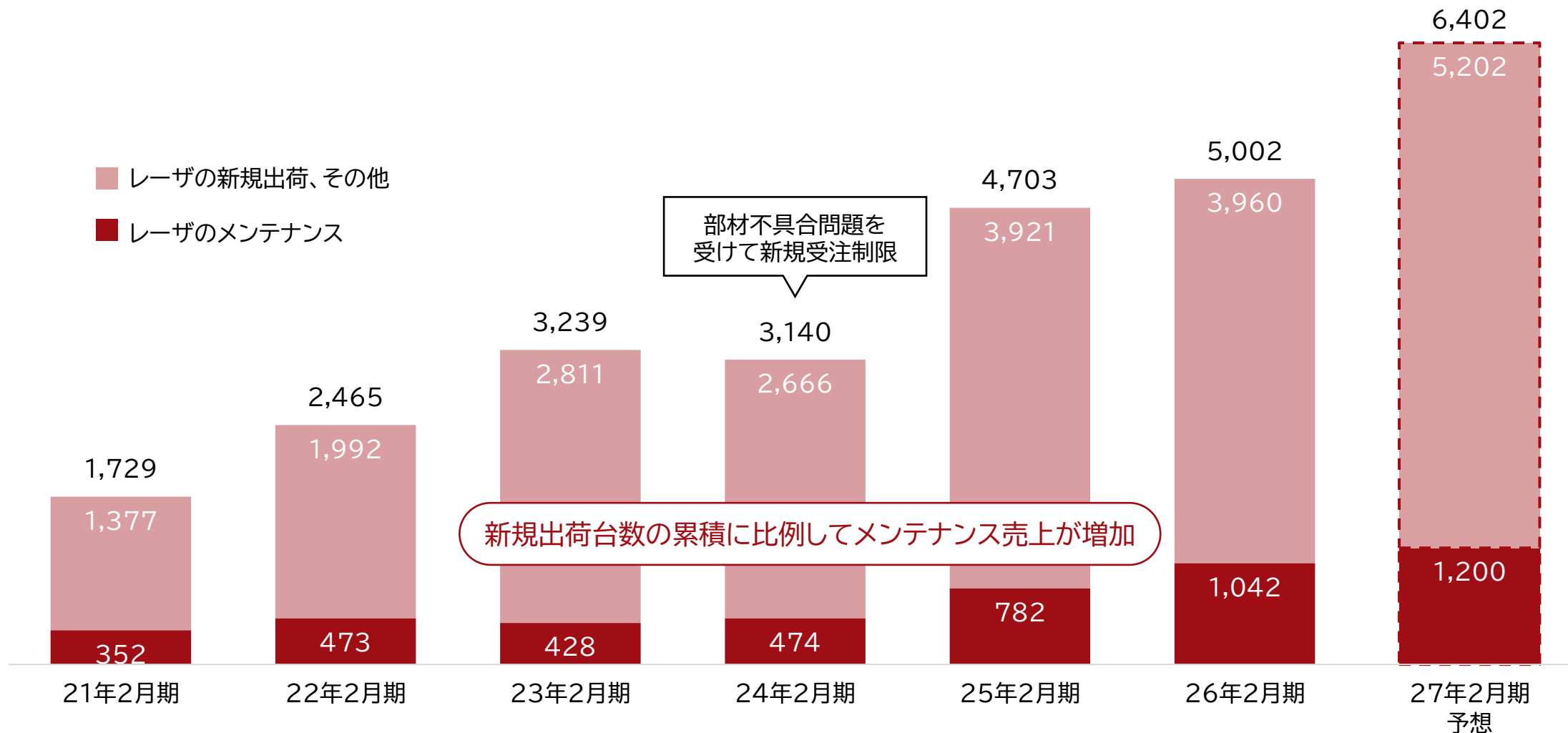
- 当社製の単結晶は高品質・長寿命を特長としていますが、深紫外の波長変換用途においては、継続使用により一定の劣化が生じます。
- 新たに出荷した深紫外レーザ製品では、使用開始後一定期間(1~2年)ごとに、波長変換単結晶や光学ユニットの交換を含むメンテナンスが必要となります。



半導体 | 売上高推移

■ 当社の深紫外レーザー製品のメンテナンスは当社のみが実施可能であり、新規出荷台数の累積に比例して売上が増加する、リカーリング型のビジネスモデルです。

(単位:百万円)

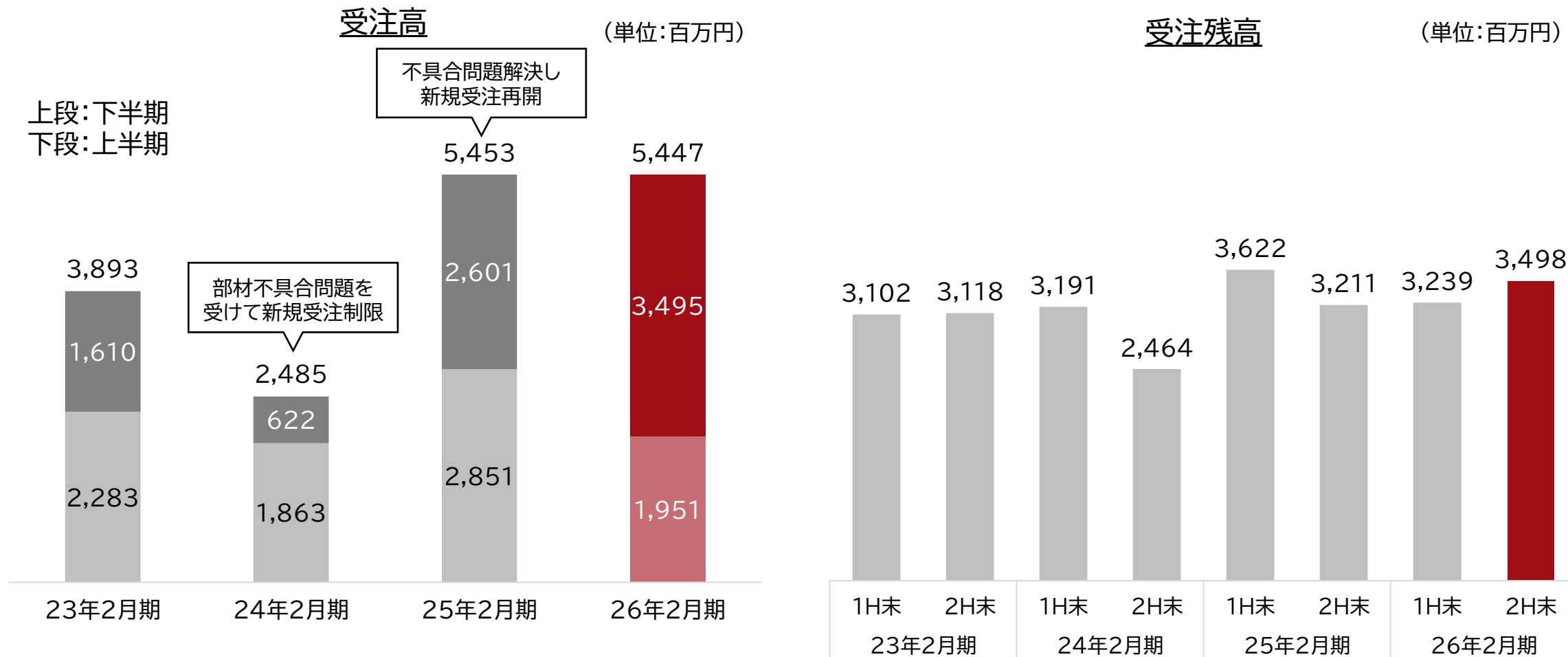


半導体 | 受注高と受注残高



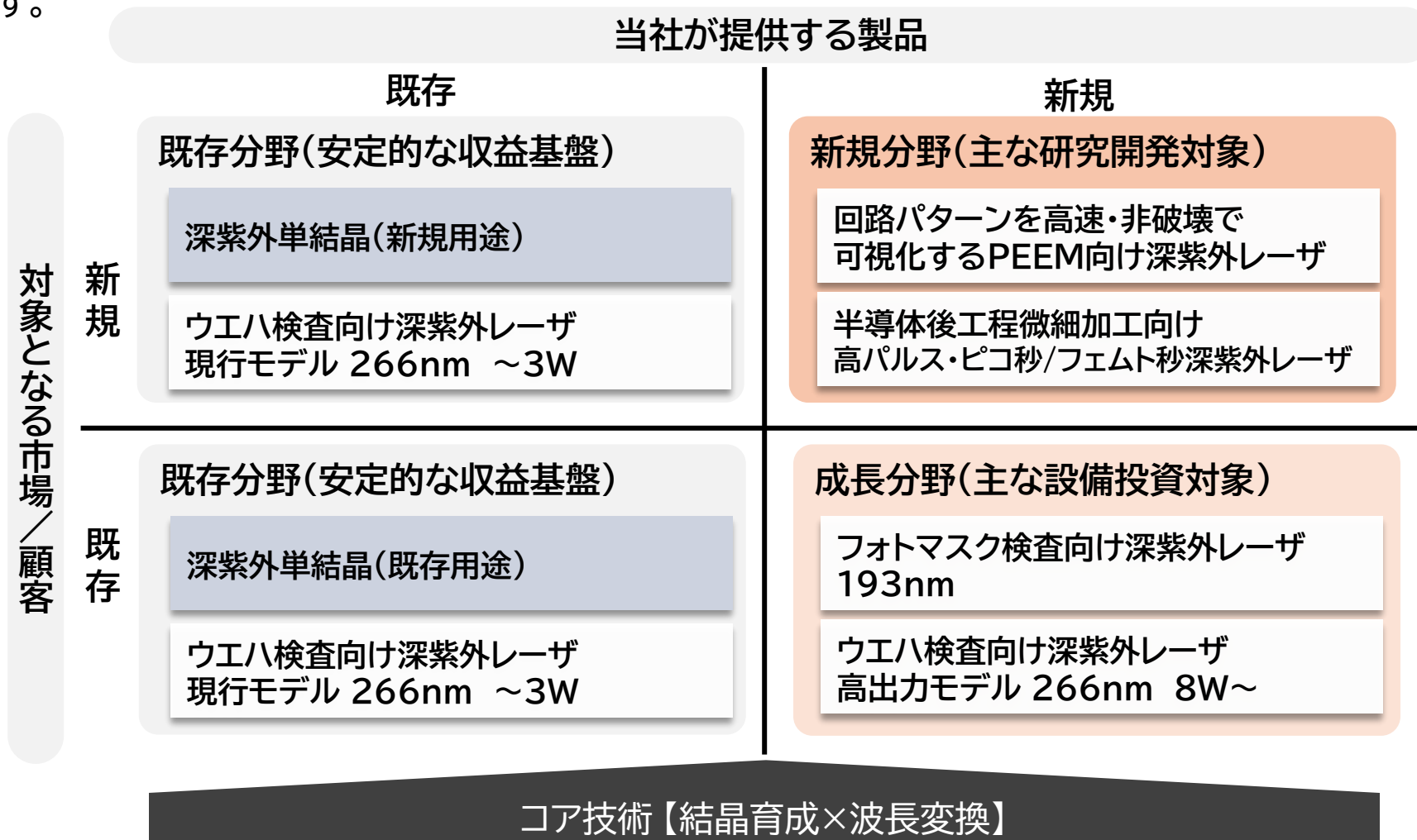
■ 2026年2月期の受注高は、54億4,700万円となりました。

■ 2026年2月期末時点の受注残高は、期末としては過去最高の34億9,800万円となりました。



半導体 | 事業戦略

- 当社の半導体事業は、単結晶および深紫外レーザを中心とした既存分野で安定的な収益基盤を確立しています。
- 安定収益をベースに、フォトマスク向け193nmレーザや266nm高出力モデルなどの成長分野と新規分野への投資を加速します。

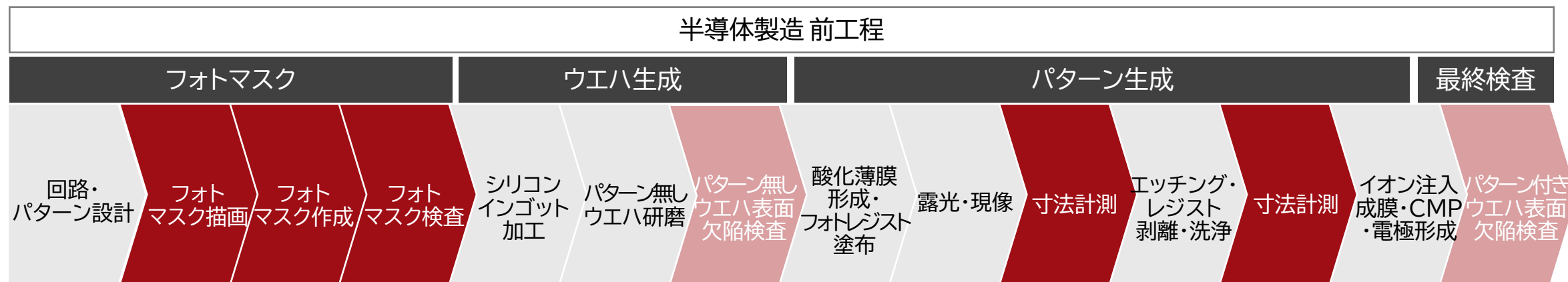


半導体 | 半導体製造 前工程における新規案件の拡大

OXIDE

- 当社は半導体製造の前工程において、深紫外レーザの新規顧客開拓を推進し、既存市場の強化と新市場への進出を通じて事業成長を加速させます。
- これまで、ウエハ欠陥検査工程において単結晶およびレーザのシェアを拡大してきました。今後は深紫外レーザの需要が見込まれるフォトマスクや寸法計測の工程に向け積極的に製品拡販し、さらなる成長を目指してまいります。

➡ 現状 ➡ 製品拡販



当社製品
ラインナップ



QCW Kalama
193nm全固体レーザ



QCW Kalama
266nm高出力レーザ



Frequad-M



Frequad-C

半導体 | 新製品リリース

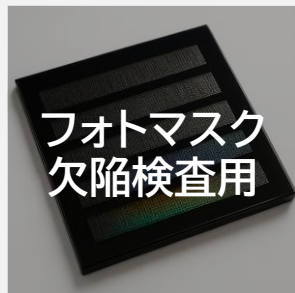
OXIDE

短波長化

193nm全固体レーザ

フォトマスク欠陥検査、次世代ウエハ欠陥検査などの高解像度を必要とする検査装置市場に新たに参入します。

- ArFエキシマレーザと同じ波長193nmを全固体レーザで実現
- ArFリソグラフィ用フォトマスク検査に対応
- 医療分野、光学素子検査など幅広い分野での活用も期待



高出力化

266nm高出力レーザ

ウエハ欠陥検査の高スループット化に貢献し、既存市場のシェア拡大を目指します。

- 従来機の3~4Wに対し、標準8W・最大12Wの高出力化を実現し、ウエハ検査の感度とスループットを飛躍的に向上
- 従来機と同筐体サイズを維持しており、既存の検査装置への導入も容易な省スペース設計

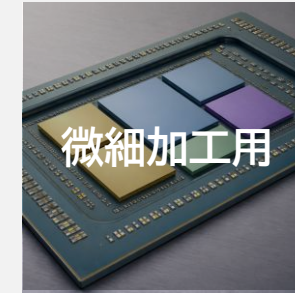


微細加工市場向け

半導体後工程向けレーザ

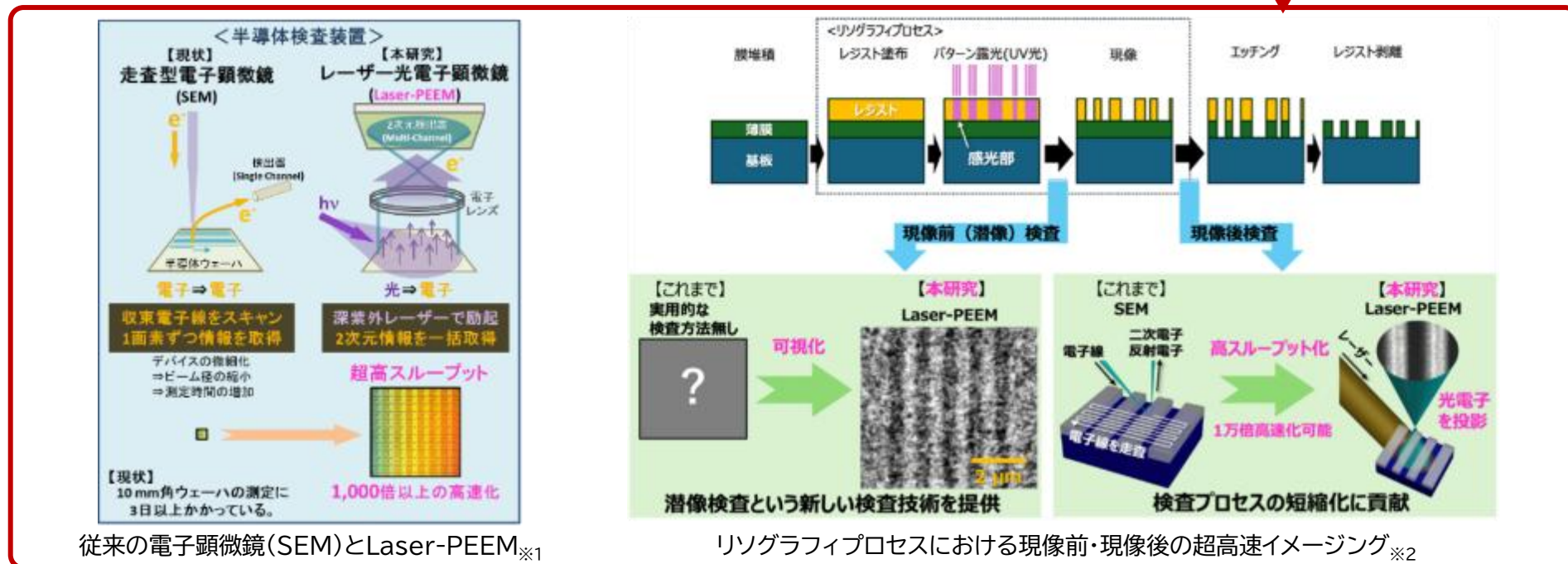
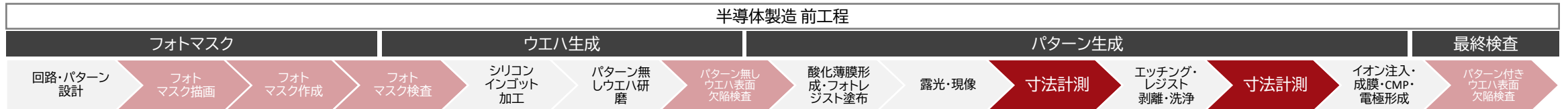
半導体後工程における高精度・低ダメージの微細加工に最適な深紫外ピコ秒レーザを新たに製品化しました。

- 波長266nm、パルス幅約30ps、パルスエネルギー>1μJを実現し、高精度・低ダメージの微細加工に最適
- 先端パッケージングにおける微細構造形成や特殊材料の選択的加工に対応
- 繰り返し周波数1MHzにより高スループット化を実現し、工程短縮に貢献



半導体 | 新規案件: PEEM(光電子顕微鏡)

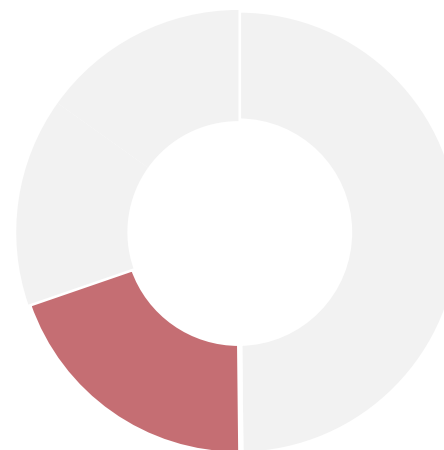
- 回路パターン検査のスループットを、従来技術(CD-SEM)の1,000倍以上に高速化可能です。
- 現像前の回路パターン欠陥検査(潜像イメージング)が可能になり検査プロセスの短縮化に貢献します。
- この技術開発に当社の深紫外レーザが採用されています。



ヘルスケア事業



がんの診断に使用されるPET検査装置に搭載されるシンチレータ単結晶の開発、製造、販売



26年2月期

売上高

1,997百万円

売上高構成比

20%

ヘルスケア | がん診断用PET装置とシンチレータ単結晶

- 当社のシンチレータ単結晶は、がん診断用PET装置※₁に搭載されています。
- PET装置は、がんの早期発見に欠かせない医療機器です。
- がんによる社会の経済的負担は、約2.8兆円※₂です。がんの早期発見は、私たちの命を救うだけでなく、経済的負担の軽減にもつながります。

経済的負担

2.8兆円



PET装置に用いる当社製品



PET装置



PET診断画像



ヘルスケア | シンチレータ単結晶の競争優位性

- 当社シンチレータ単結晶は、独自の結晶育成技術と長年の量産ノウハウ、広範な特許により高い参入障壁を構築しています。高性能PET装置向けを中心に、新規・既存顧客での採用拡大を通じ、安定的かつ持続的な成長を実現します。
- 頭部専用PET装置の市場の立ち上がりに向けて、試作段階から当社製品の採用を図り、量産採用を目指します。

競合優位性

1. 独自の結晶育成技術による高品質単結晶

育成技術

2. 長年の生産技術向上による高歩留まり

量産技術

3. 広範囲な特許による参入障壁

特許

当社のシンチレータ単結晶インゴット



事業戦略

①新規顧客シェアアップ

- ・ 歩留り向上による価格競争力アップ
- ・ 顧客要望を満たす結晶組成調整
- ・ 社内加工による付加価値の向上
- ・ 地政学上のメリット

②既存顧客シェアアップ

- ・ 性能向上による採用率アップ

③頭部専用PET市場参入

- ・ PET装置試作段階から当社製品の採用

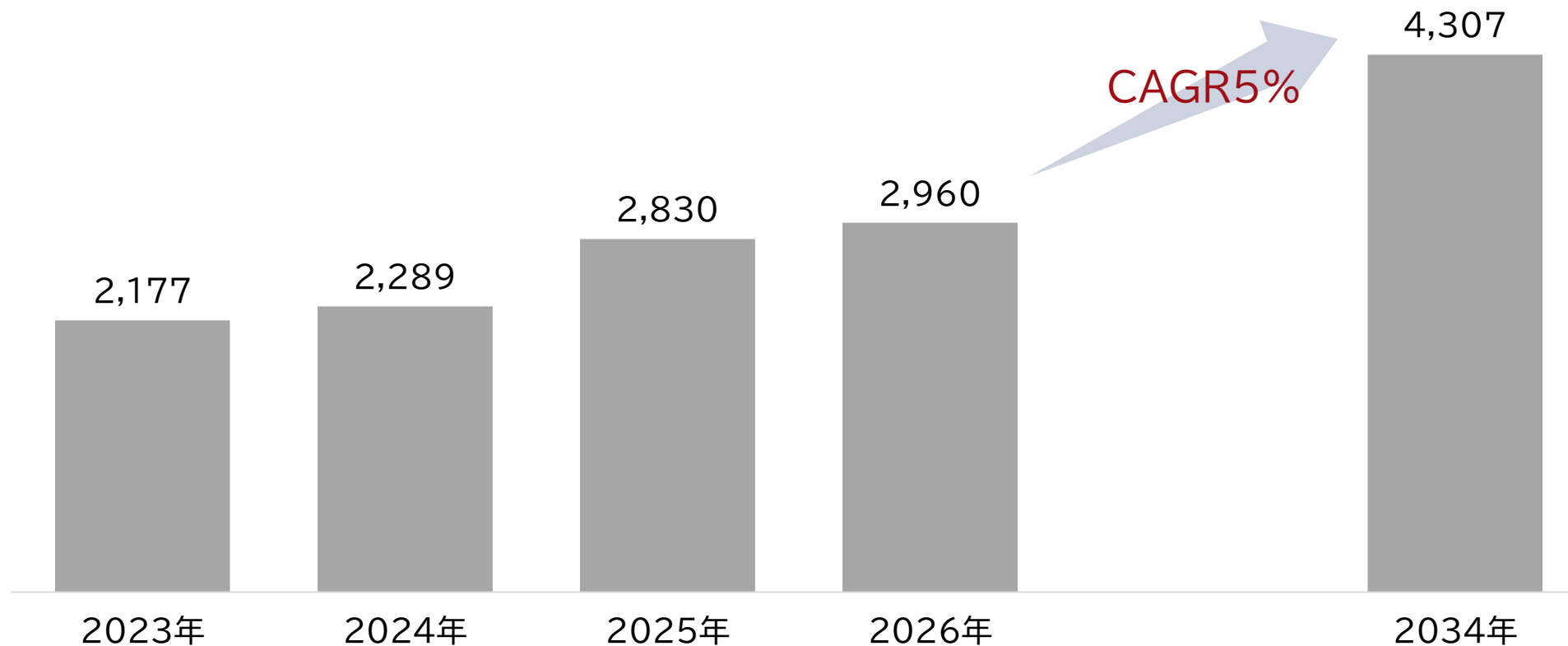
④新しい単結晶の開発

ヘルスケア | 市場環境

- PET検査装置の市場は、CAGR5%程度で長期的な安定成長が予想されます。
- 当社は、この市場環境を踏まえて、ヘルスケア事業は安定的な収益基盤を形成する事業と捉えています。

PET検査装置の市場動向※

(単位:\$million)

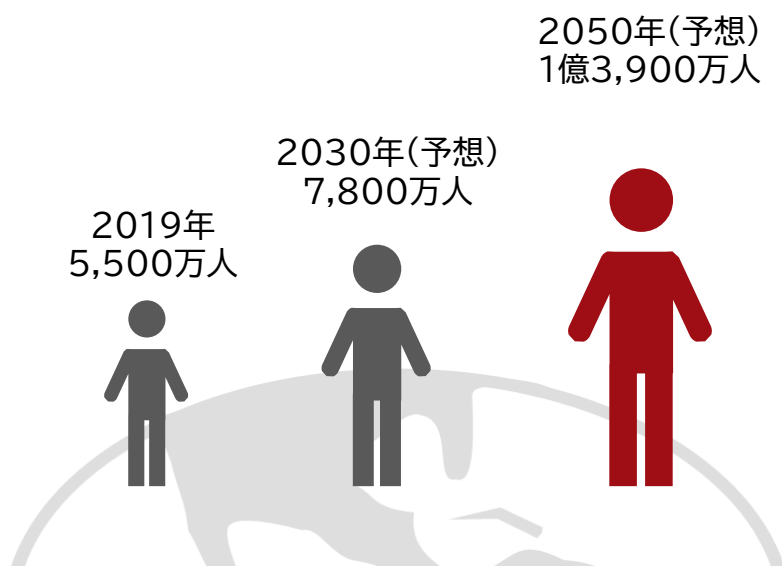


※ 出典: Fortune Business Insights, PET Scanners Market Size, Share & Industry Analysis, 2026-2034, Apr 2026
<https://www.fortunebusinessinsights.com/pet-scanners-market-115782>

ヘルスケア | 頭部専用PET装置の動向

- 頭部PET検査は、アルツハイマー型認知症の原因物質アミロイドβの検査方法の一つです。
- アルツハイマー治療は規制要件の厳しさや高コストが課題ですが、治療薬市場はCAGR10.1%成長が予測されており、小型頭部専用PET装置用のサンプルや引き合いが増加傾向にあります。※1
- 2025年12月には、国内初の「ドナネマブ」投与患者におけるアミロイド除去に成功した事例も報告され、期待感が高まっております。※2

アルツハイマー型認知症人口(全世界)※3



CAGR10.1%

診断

治療薬

検査

当社の単結晶は頭部専用PET装置に搭載されています

エーザイ社

アルツハイマー型認知症治療薬「レカネマブ」
2023年7月6日:米国で正式承認
2023年9月25日:日本で厚生労働省が承認
2025年4月16日:EUにおける販売承認を取得



※1出典:Global information, Alzheimer's Disease Drugs Market by Drug Class - Global Forecast 2025-2030, Oct 2024

※2出典:金沢大学,「国内初ドナネマブ治療患者 脳内アミロイド除去を達成し1年で投与完了」
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2026/03/20260327.pdf>),March 2026

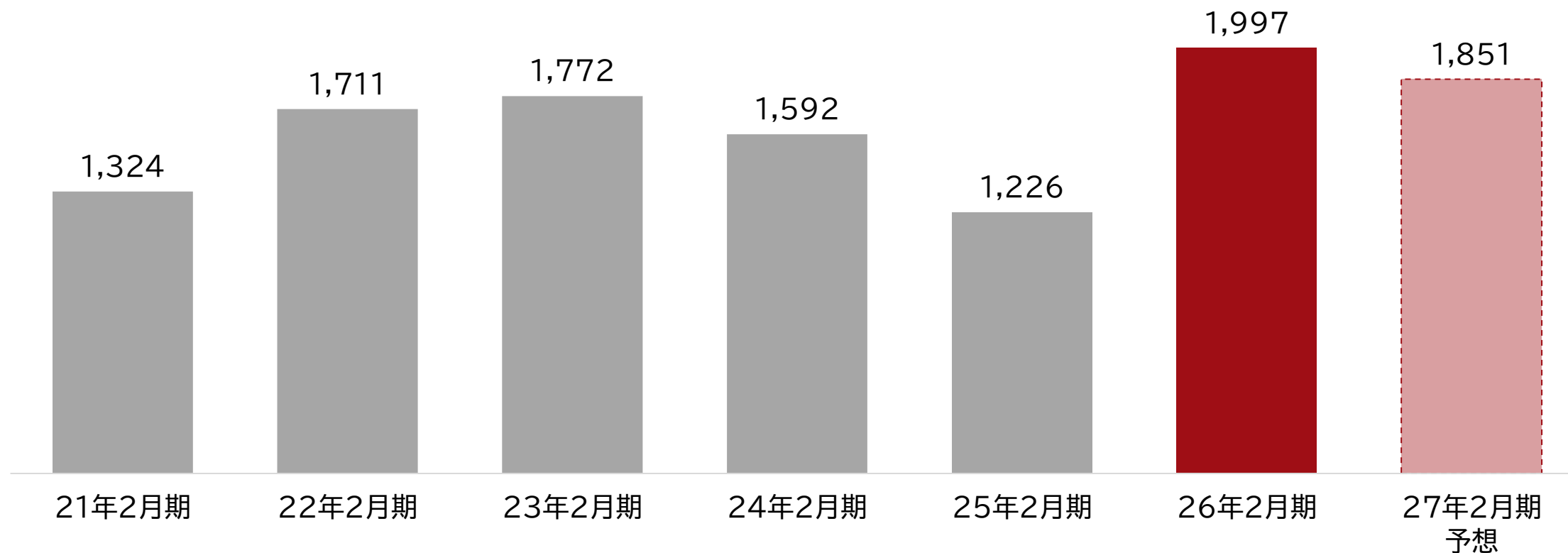
※3出典:WHO fact sheets on 20 September 2022

ヘルスケア | 売上高予想

OXIDE

- 2026年2月期は、過去最高の19億9,700万円となりました。
- 2027年2月期は、18億5,100万円となる見込みです。
- 顧客の実需に基づく安定した出荷フェーズに移行しております。

(単位:百万円)

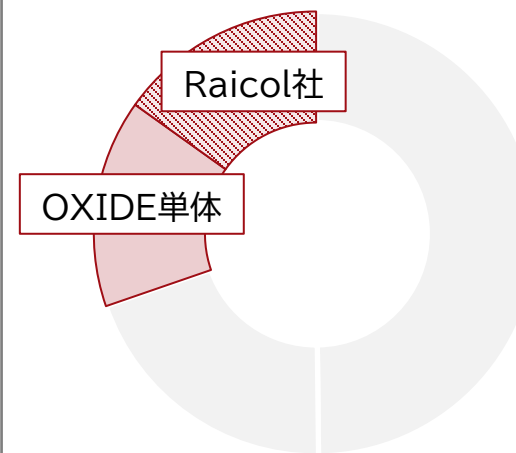


新領域事業



国内外の光計測機器/光学製品メーカー及び
大学等研究機関に単結晶、光部品、レーザ光源
及び光学測定装置を開発、製造、販売。

※Raicol社の事業を含む。



26年2月期

売上高

3,040百万円

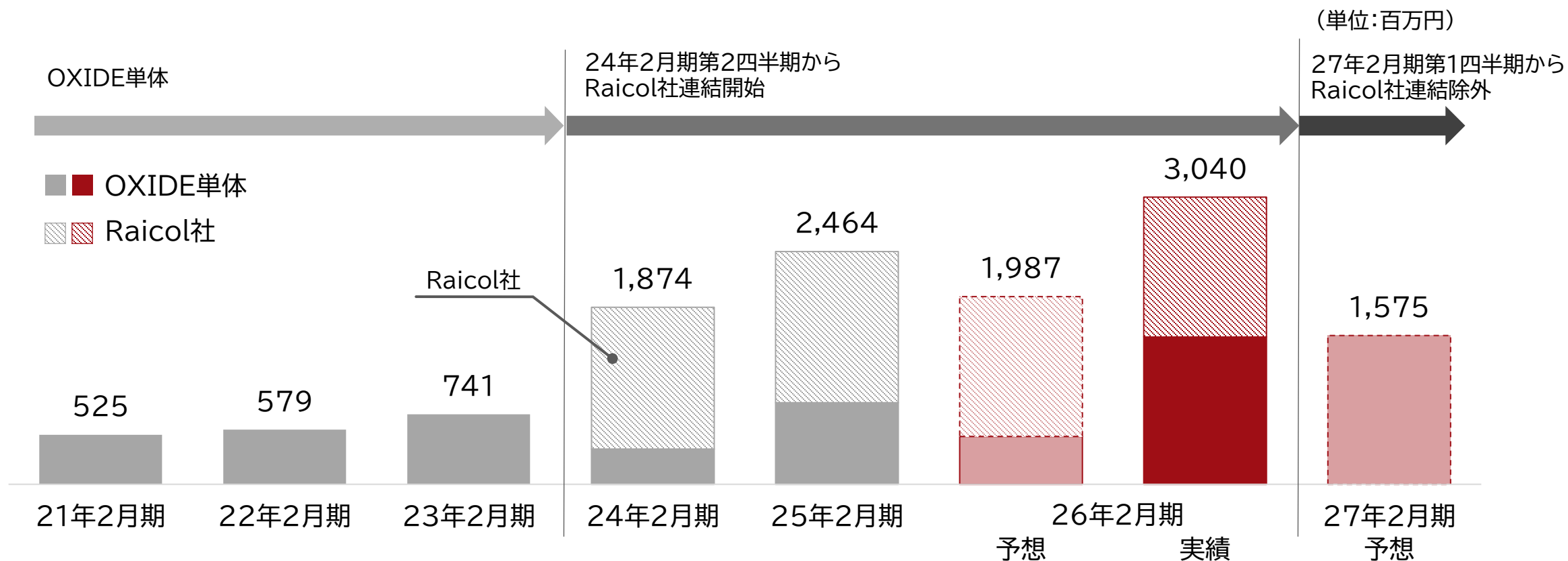
売上高構成比

30%

新領域 | 売上高予想

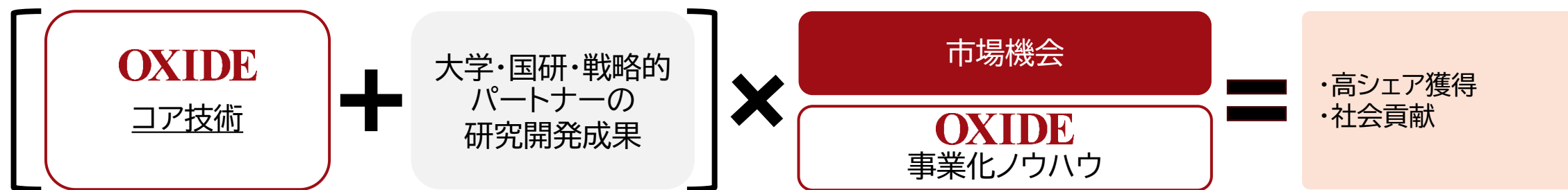


- 2026年2月期は、オキサイド単体の事業が順調に成長し、通期売上高で過去最高の30億4,000万円となりました。
- 世界的なデータセンター需要の拡大を背景として、ファラデー回転子の出荷が増加し、Raicol社の売上高減少影響を上回りました。
- 2027年2月期は、Raicol社連結除外影響があるものの、ファラデー回転子を中心にオキサイド単体の新領域事業は成長基調を維持する見通しです。

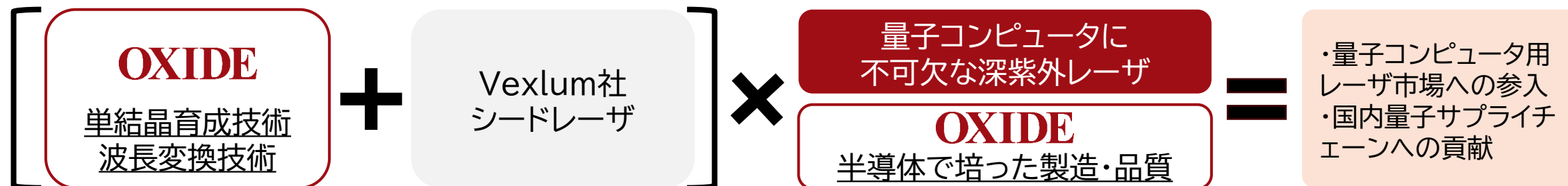


新領域 | 研究開発テーマの選定基準

- 他社に対して自社の強みや技術的優位性があり、高いシェア獲得ができる研究開発テーマを選定しています。
- 当社のコア技術と事業化ノウハウを用いて、最先端研究成果を社会実装し世の中に貢献します。
当社のコア技術に、大学・国研・戦略的パートナーの研究開発成果も組み合わせます。
- 市場規模の大小にかかわらず、顧客と社会のニーズに応えることも選定基準です。



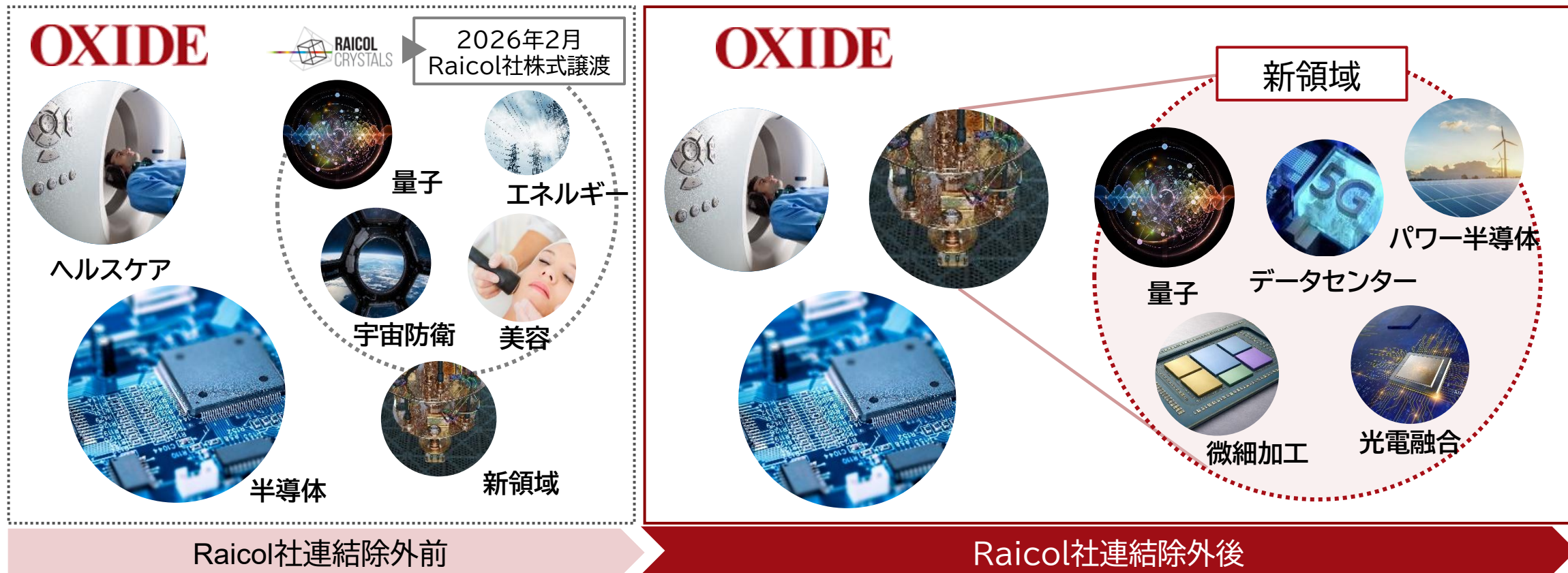
具体例:量子コンピュータ向け深紫外レーザー



事業ポートフォリオ

OXIDE

■ Raicol社の連結除外後は、データセンター・パワー半導体・微細加工・光電融合といった新たな成長領域に注力しつつ、量子分野は引き続き拡大を図っています。



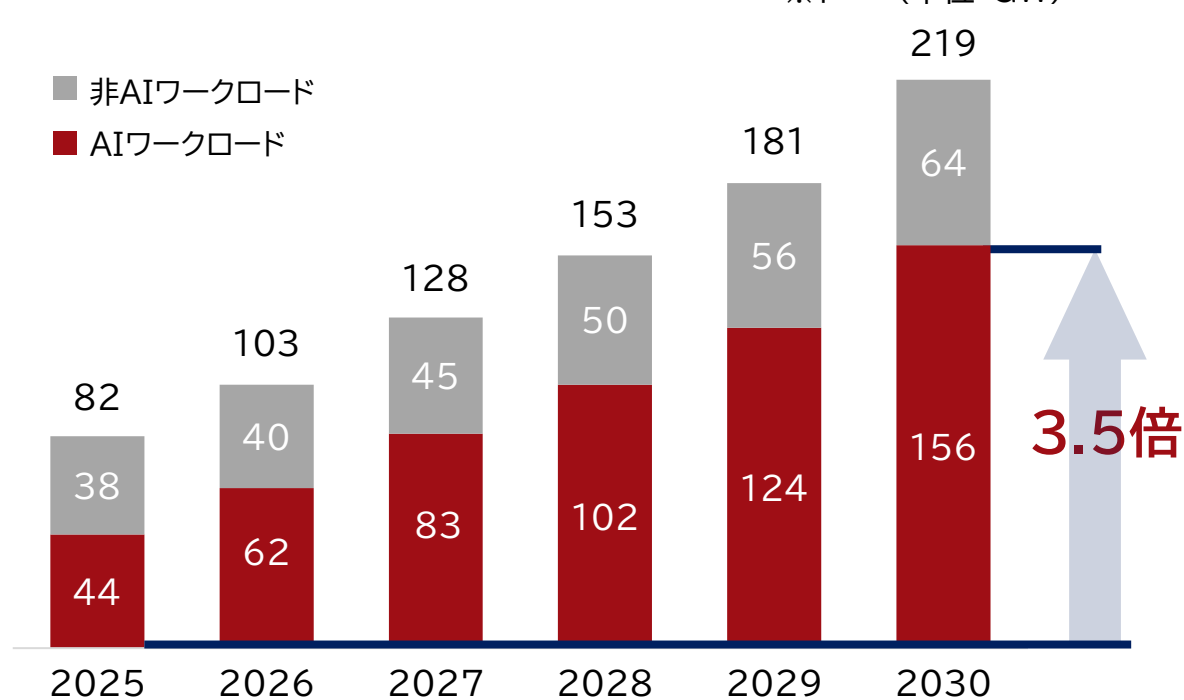
地政学リスクの影響で
連結除外

データセンター・パワー半導体・微細加工・光電融合を
新たな成長領域として、経営資源を再配分するとともに
量子分野は引き続き拡大を図る

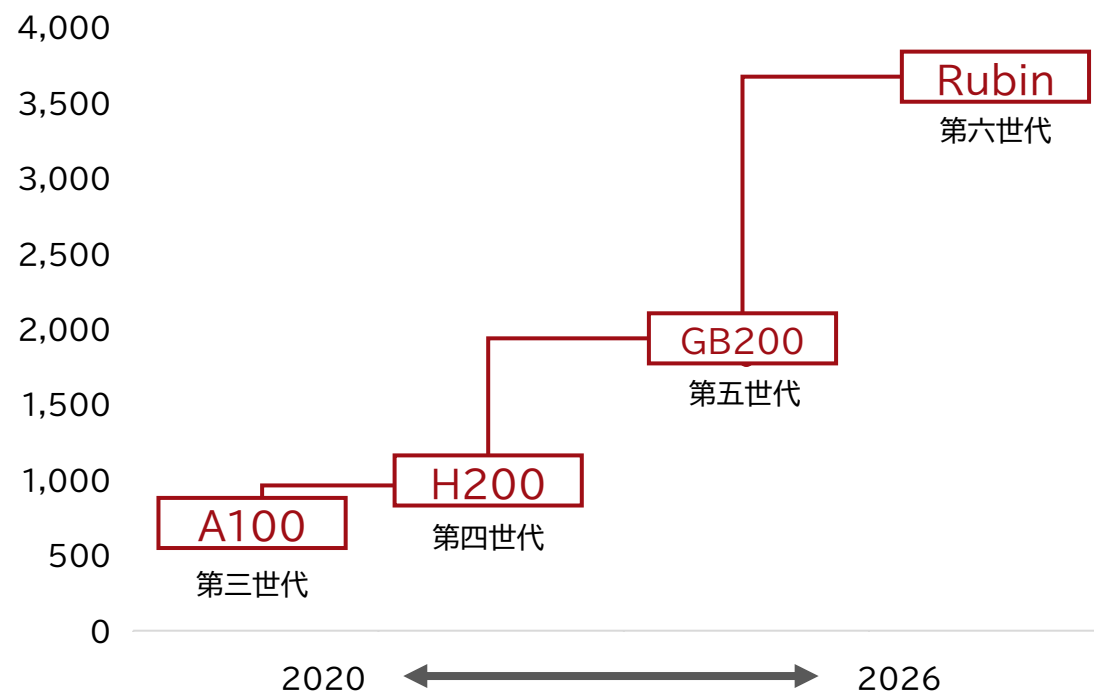
新領域 | 重要なターゲット市場: AIデータセンター

- AIデータセンターの急成長は継続し、2030年には2025年比約3.5倍のキャパシティに到達すると予想されています。
- NVIDIAの計画では、次世代GPU「Rubin」プラットフォームにおいて、GPUあたり3.6TB/秒という極めて高い帯域幅の実現が見込まれています。
- こうしたデータセンターの急速な拡張に伴い、データ通信量および消費電力の増加に対応する技術が、これまで以上に重要となっています。

世界のデータセンター容量需要※1 (単位:GW)



NVIDIA NVLink 世代別 帯域性能※2 (単位:GB/S)



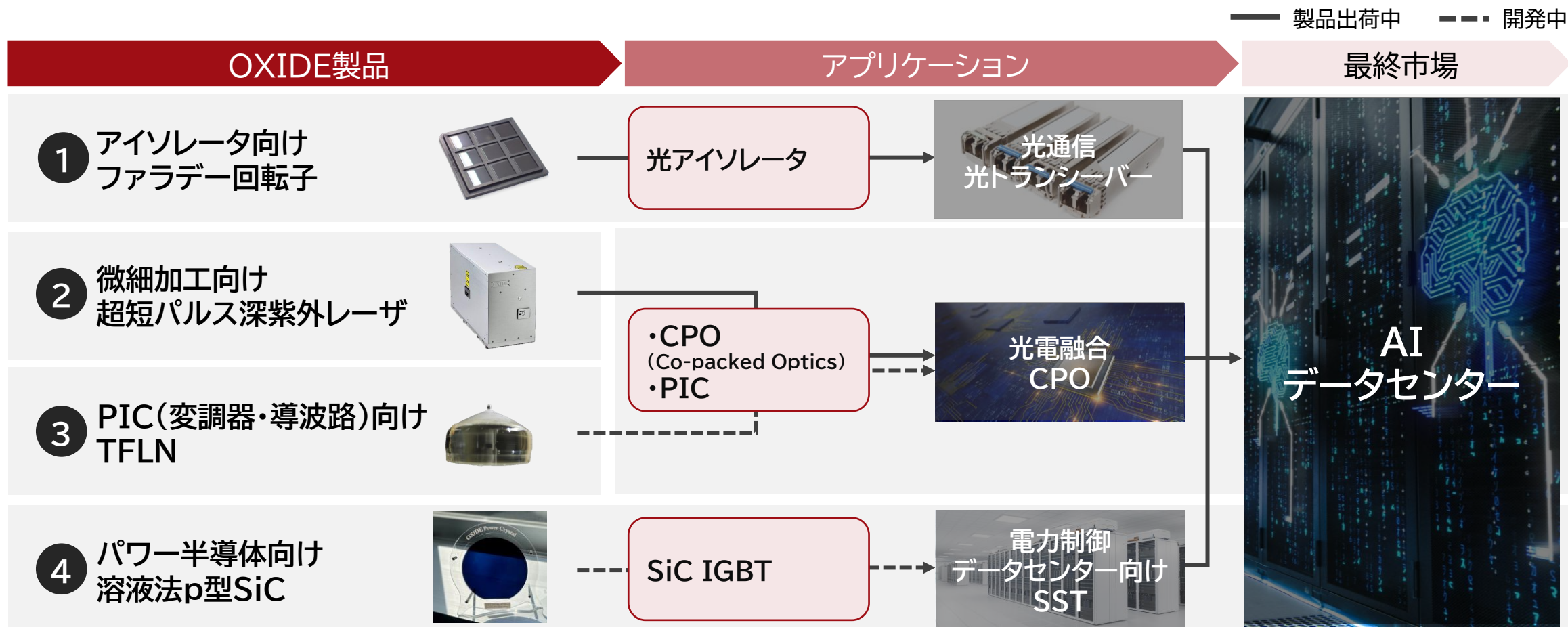
※1 出典:<https://www.mckinsey.com/industries/technology-media-and-telecommunications/our-insights/the-cost-of-compute-a-7-trillion-dollar-race-to-scale-data-centers>

※2 出典:<https://www.nvidia.com/ja-jp/data-center/nvlink/>

新領域 | 重要なターゲット市場: AIデータセンター



- AIデータセンターの急速な成長に伴い、光通信・光電融合・電力制御の各領域で、当社技術の重要性が高まっています。
- 単結晶育成と波長変換というコア技術を起点に、ファラデー回転子・微細加工用深紫外レーザー・TFLN・p型SiCウエハなど、AIデータセンターのサプライチェーンに不可欠なキーマテリアルを提供しています。



新領域 | AIデータセンター①ファラデー回転子

- AIデータセンターに不可欠な光通信を支える部材として、当社はファラデー回転子向けの磁気光学単結晶を製造・販売しています。
- ファラデー回転子は、光トランシーバーに搭載される光アイソレータの中核部品であり、光の偏光面を回転させ、偏光板と組み合わせることで「光の弁」として機能し、レーザ光源や光回路を反射光から保護する役割を担います。
- AIデータセンターの急拡大に伴う光トランシーバー需要の増加を背景に、当社製品に対する需要が拡大しています。

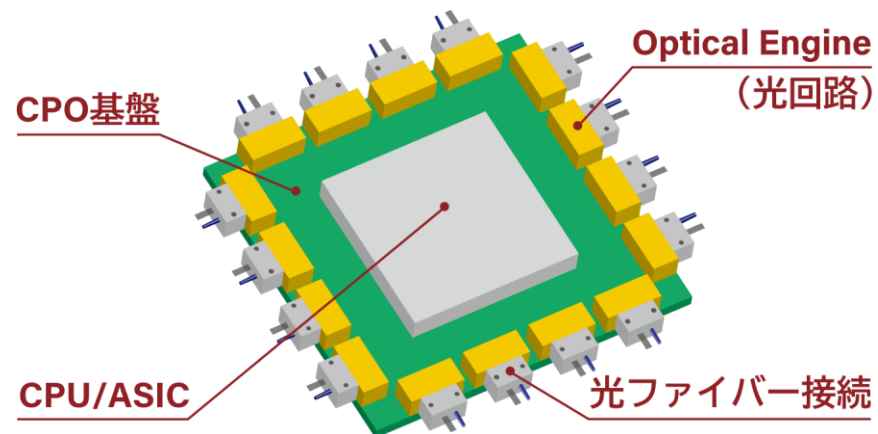
光アイソレータの仕組み



新領域 | AIデータセンター②微細加工向け超短パルス深紫外レーザー **OXIDE**

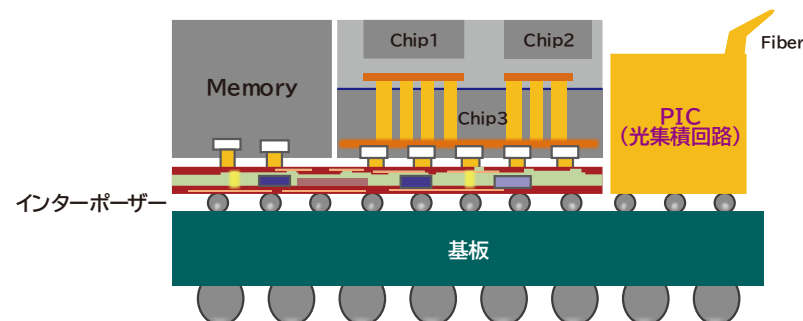
- 光電融合(CPO)やPICの実装に不可欠な微細加工技術に対し、当社は超短パルス深紫外レーザーを提供しています。
- 半導体検査用途で培った深紫外レーザー技術を次世代の微細加工に展開しています。

CPOの構造



- CPOやPICの微細加工では、熱影響を最小化しつつ、サブミクロン精度で材料を加工することが求められます
- 超短パルス深紫外レーザーは、短パルスかつ短波長により、他方式では難しい高精度・低ダメージ加工を実現します。

CPOの断面イメージ



各層でビア・配線などの微細加工が必要

レーザー方式	ガスレーザー	ファイバーレーザー	可視光	超短パルスレーザー
波長	DUV	IR	可視	DUV
パルス	CW	ns / CW	ns	ps / fs
微細加工適性	△	×	△	◎
課題	熱影響	分解能・熱影響	精度不足	設計難易度

OXIDE

新領域 | AIデータセンター②微細加工向け超短パルス深紫外レーザー OXIDE

- 当社は、微細加工向けレーザーのサプライチェーン構築のため、台湾Bolite社、ポーランドFluenceと業務提携を行いました。
- 今後も戦略的パートナーとの協業を通して、発展著しいレーザー微細加工の事業開発を加速します。

OXIDEの微細加工向けパートナーシップ

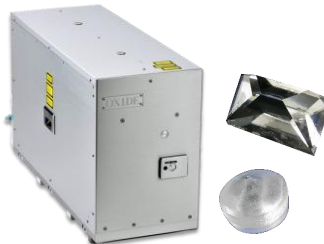


- ・フェムト秒レーザーの研究・開発製造
- ・微細加工に必要な、高精度・熱変性のない加工を実現



OXIDE

- ・半導体前工程向けの波長変換単結晶と深紫外レーザー
- ・半導体事業で培った豊富な実績と高い信頼性



- ・レーザーモジュールと加工装置の技術・ノウハウ
- ・微細加工の中心地台湾で培った豊富な顧客ネットワーク



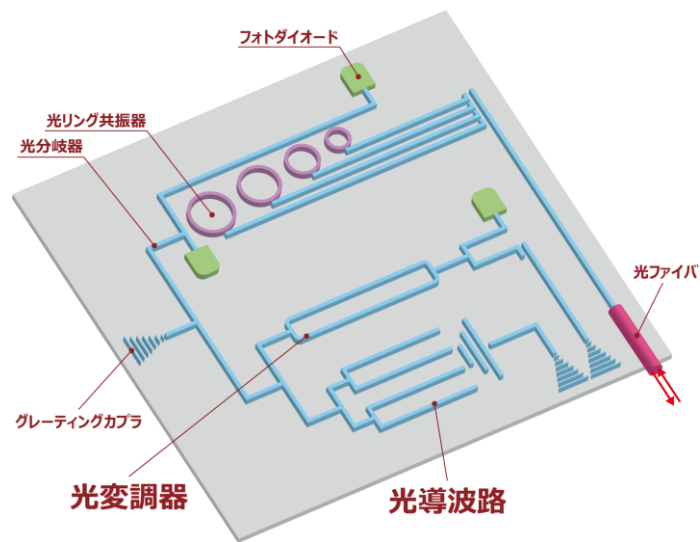
レーザー微細加工の応用

- ・ ガラス基板およびSiCインターポーター向けの微細加工
- ・ 高信頼トレサビリティを実現するマイクロQRコードマーキング
- ・ 光電融合に代表される次世代デバイス向け加工ソリューション
- ・ ダイヤモンドウエハの平坦化やCMP基板に対応した高精度加工

新領域 | AIデータセンター③PIC(変調器・導波路)向けTFLN

- PIC(Photonic Integrated Circuit)とは、変調器や導波路などの光機能を集積した光集積回路であり、光電融合の心臓部です。AIデータセンターにおいては、光通信の高速化に向けてPICの高性能化が不可欠となっています。
- TFLN(薄膜ニオブ酸リチウム)は、次世代PIC材料として、InP(インジウムリン)と共に注目されています。
- 当社は、NEDO「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業」に採択され、TFLNの研究開発を進めています。

PICの構造



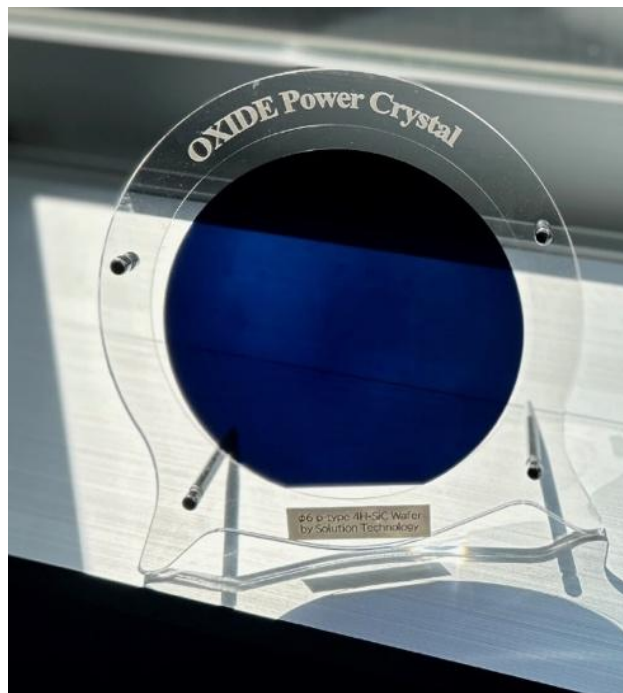
	Si (シリコンフォトニクス)	InP (インジウムリン)	TFLN (薄膜ニオブ酸リチウム)
強み	低コスト・量産性	唯一の「自力で光る」材料	圧倒的な高速・低消費電力
特徴	・高い集積・加工性 ・1チップに集積でき、小型化に最適	・優れた発光・増幅特性 ・電気を光に変える効率が高く、通信インフラを支える	・卓越した電気光学効果 ・電圧をかけると屈折率が変化し、高速な信号制御が可能
課題	・シリコン自体発光しない ・外部レーザとの接続や実装難易度が高い	・量産コストが高い ・小口径ウェハが主流で、製造効率が限定的	・サプライチェーン未成熟 ・加工難易度が高い
帯域幅	中(物理的限界) 高速化に伴いノイズや熱の問題が顕著になる	高(高速通信の主流) 長年の実績があり、高速変調にも対応	最高(次世代規格の鍵) 200GHzを超える超広帯域をカバー可能

新領域 | AIデータセンター④パワー半導体向け溶液法p型SiC

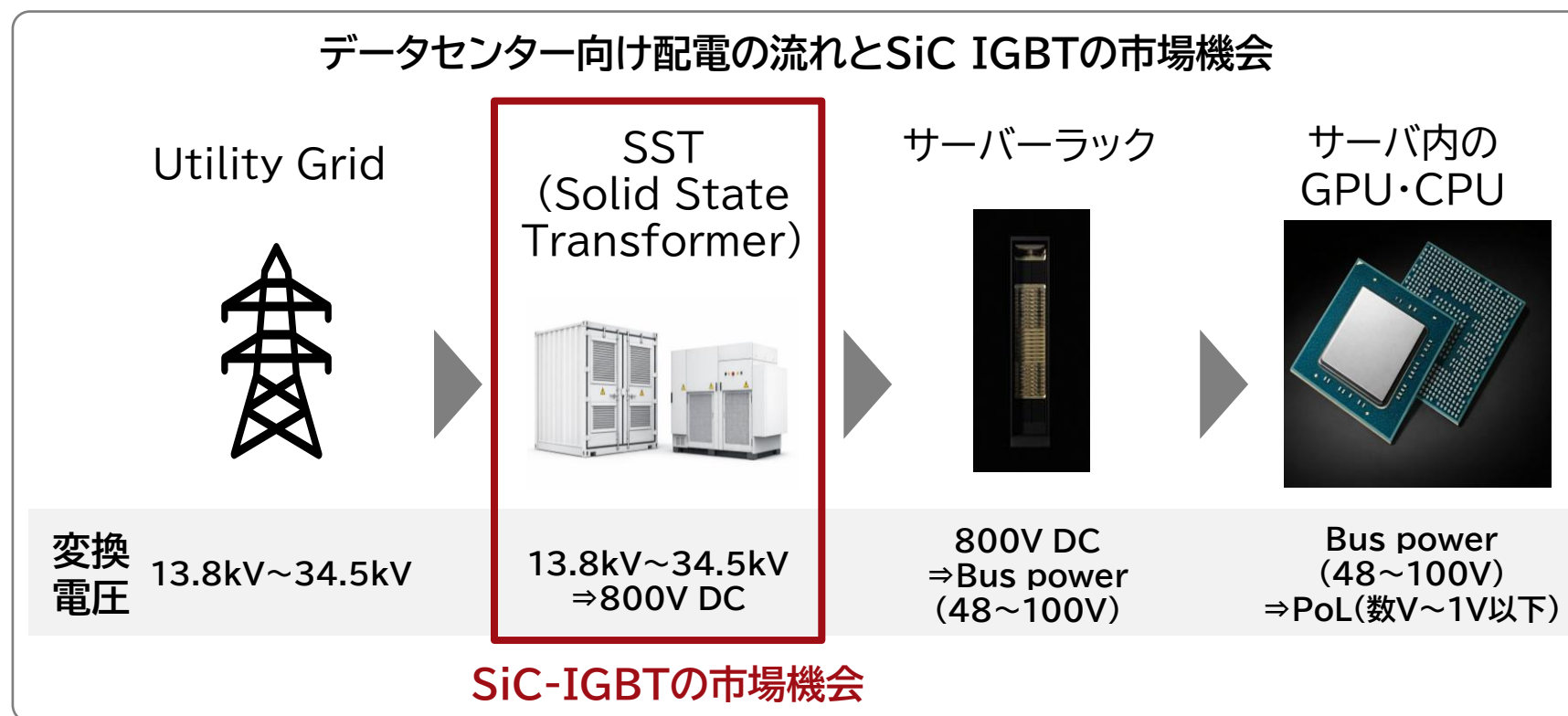
OXIDE

- オキサイドパワークリスタル社は、6インチp型SiCウエハの開発に成功し、顧客へのサンプル出荷を開始しました。※
- HVDC(直流送電)やデータセンターSST向けで、超高耐圧パワー半導体SiC IGBTの立ち上がりが期待されています。
- 当社は、SiC IGBTの実現に不可欠なp型SiCウエハの提供を通して、次世代電力サプライチェーンにおいて不可欠な存在となることを目指します。

溶液法SiC p型ウエハ

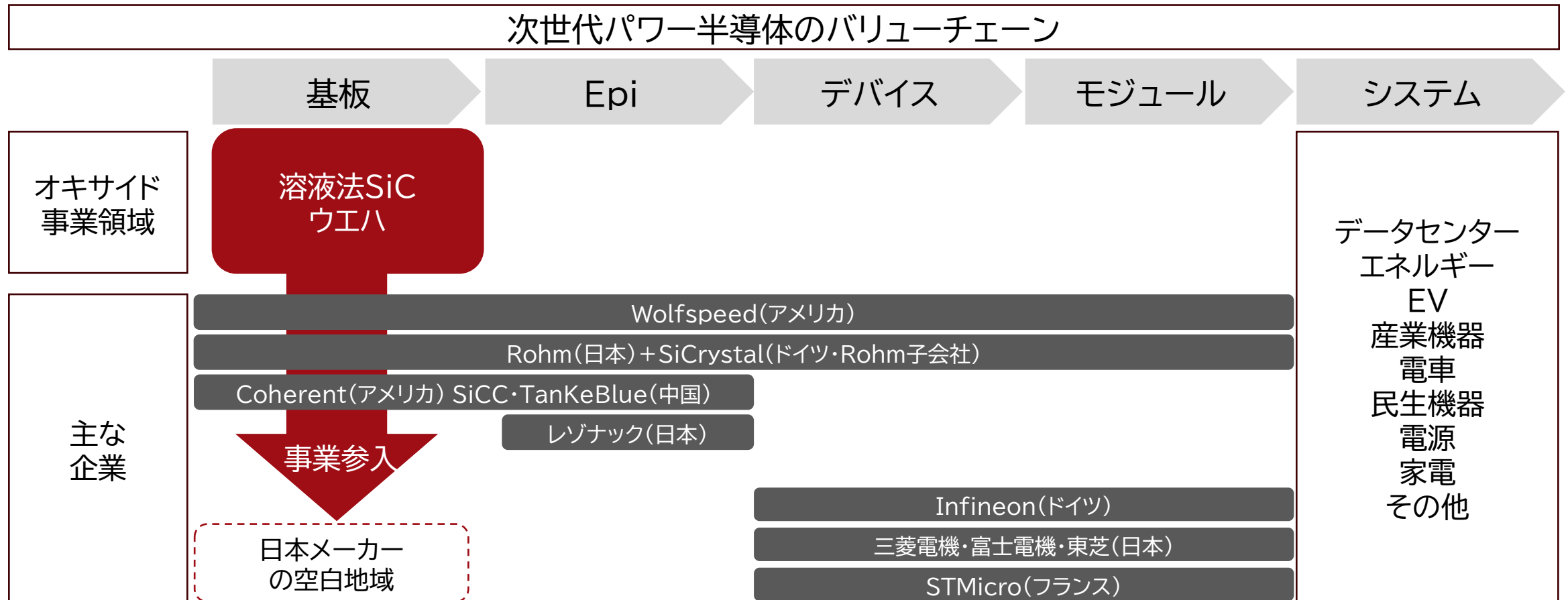


SiC IGBTの市場機会



新領域 | AIデータセンター④パワー半導体向け溶液法p型SiC

■ 当社は単結晶のリーディングカンパニーとして、パワー半導体事業を子会社化し、バリューチェーン上流に位置する基板の事業開発を進めます。



新領域 | AIデータセンター④パワー半導体向け溶液法p型SiC

OXIDE

- 当社は、名古屋大学発スタートアップのUJ-Crystal社と共に溶液法によるSiC単結晶育成に取り組んでいます。
- 溶液法は、他の育成法である昇華法に比べて、欠陥の少ないSiC単結晶の製造が可能と見込まれています。
- 昇華法で育成されるSiC単結晶はn型となりますが、溶液法ではn型とp型の両方が育成可能となり、用途が広がります。
- 低い温度で結晶成長が出来ることから、製造段階での省エネ効果が期待でき、環境に優しい育成方法です。

これまでの育成法

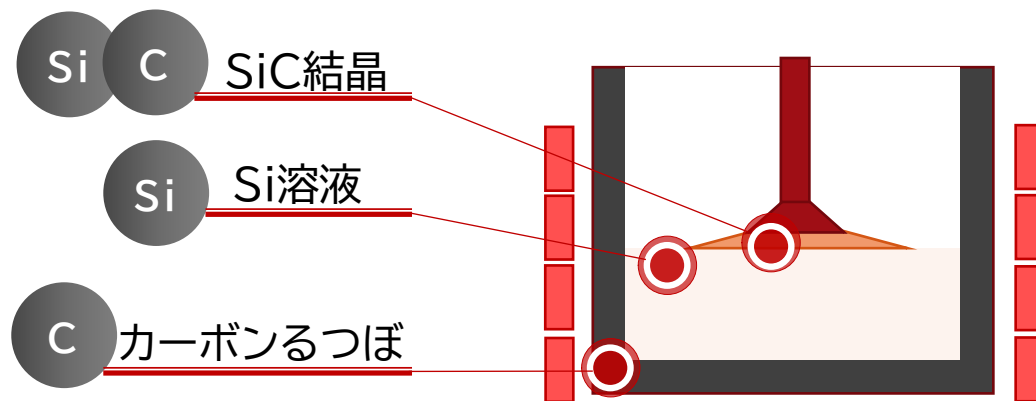
昇華法



新育成法

溶液法

6インチSiC単結晶



大口径化

熱歪みが小さく大口径化が可能。

低欠陥密度

温度勾配が小さく欠陥が少ない。

成長スピード

成長スピードは炭素の供給律速であり、温度勾配を必要としない。

低環境負荷

結晶成長温度が他の育成法と比較し低く、環境に優しい。

新領域 | 重要なターゲット市場:量子

- 量子とは極めて小さなエネルギーや物質の単位の総称です(例:光子、原子)。
- 特定課題に向けた技術として、世界的に量子分野に大きな注目が集まっています。
- 量子コンピューティング・量子暗号通信・量子センシングの3つが主な応用分野として期待されています。

量子コンピューティング



スーパーコンピューター
AI
ビッグデータ

既存技術例

革新的な高速
計算サービスの実現

量子による
価値

暗号解読(暗号通信・ビットコイン)
機械学習(自動運転・自動診断)
シミュレーション(新薬・素材・化学)
その他多数

用途例

量子通信



情報セキュリティ
耐量子計算器暗号
5G

高セキュリティ
高速通信の実現

金融・政府通信の秘匿化
量子インターネット基盤
次世代セキュアクラウド接続
その他多数

量子センシング



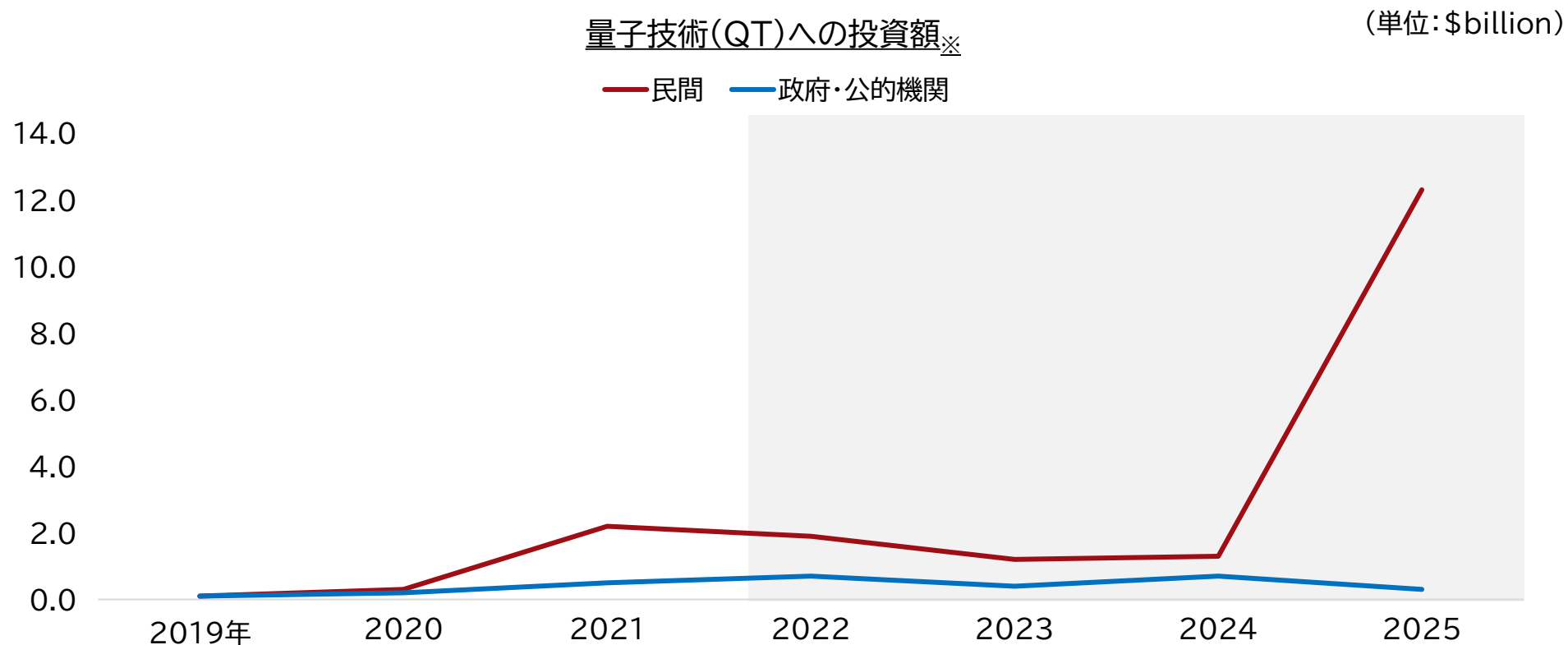
各種センサ
医療診断装置(MRI等)
IOT

高精度センシングの実現

高感度MRIや脳神経モニタリング
地下探査・地震予兆検知
その他多数

新領域 | 重要なターゲット市場:量子

- 2025年の量子技術スタートアップ投資額は前年比6.3倍の126億ドルに急増しました。
- 特に量子コンピュータへの投資が加速しています。量子コンピュータは今後基礎研究から商業化段階に移行し、2035年までに最大2.7兆ドルの経済価値を創出する見込みです。*
- 量子コンピュータは、エネルギー・素材・金融・制約・物流など、幅広い分野での活用が期待されています。

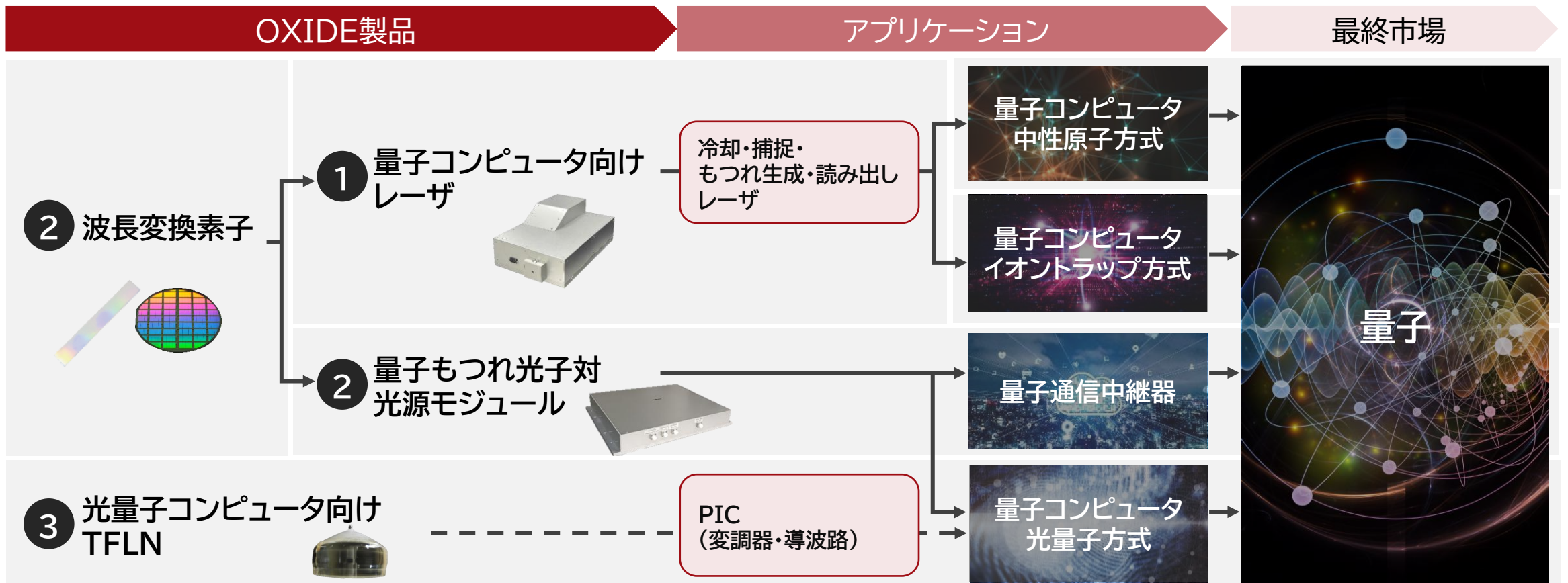


※出典: McKinsey & Company, Quantum Technology Monitor 2026
<https://www.mckinsey.com/capabilities/mckinsey-technology/our-insights/mckinsey-quantum-technology-monitor-2026-a-commercial-tipping-point#/>

新領域 | 重要なターゲット市場:量子

- 量子分野においては、量子コンピュータおよび量子通信を中心に、当社技術の重要性が高まっています。
- 量子コンピュータでは、中性原子方式およびイオントラップ方式に不可欠なレーザ製品の提供を開始しました。
- 更に、波長変換素子・量子もつれ光子対光源モジュール・光量子コンピュータ向けTFLNなど、幅広く技術を有しています。

— 製品出荷中 - - - 開発中



新領域 | 量子①量子コンピュータ向けレーザ

OXIDE

- 量子コンピュータとは、量子論固有の「量子もつれ状態」と「重ね合わせ状態」の性質を利用して、従来のコンピュータでは実現できない大規模かつ高速な計算を可能にする、次世代の計算装置です。
- 「量子ビット」をどんな物体に担わせるかで、様々な方式が提案されています。

量子コンピュータの主要方式

タイプ	主要プレイヤー	特徴	OXIDE事業機会
超伝導	富士通、NTT、Google、IBM、他	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史が長く、実績が豊富 ・高速な計算が可能 (課題) 巨大な冷却器が必要であり、大規模化、量産のハードルが高い	
中性原子	QuEra、Pasqal、NanoQT、Yaqumo、Atom Computing、他	<ul style="list-style-type: none"> ・拡張性がよく、並列化しやすい ・室温動作可能 (課題)計算速度が遅い	原子の捕捉、冷却、読み出し、もつれ状態生成でそれぞれ レーザ光が必須
イオントラップ	IonQ、Quantinuum、Qubitcore、他	<ul style="list-style-type: none"> ・誤りが出にくい ・室温動作可能 (課題)拡張性に課題	イオンの捕捉、冷却、読み出し、一部のゲート操作で レーザを使う
光量子	OptQC、NTT、XANADU、他	<ul style="list-style-type: none"> ・室温動作可能 ・量子通信との相性がよい (課題)ゲート操作の実装が難しい	波長変換素子・量子もつれ光子対生成モジュール・PIC用のTFLN

当社レーザの
ターゲット方式

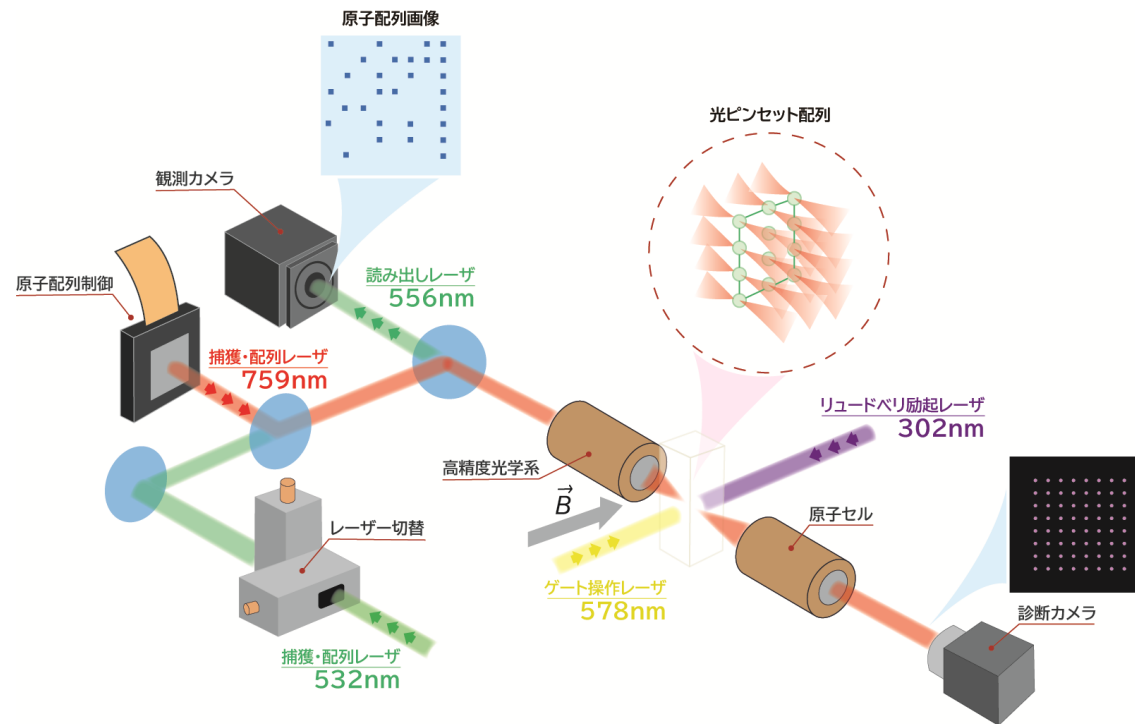


新領域 | 量子①量子コンピュータ向けレーザー

- 量子コンピュータ開発が基礎研究から産業化への移行期として各方式の開発が進む中、「中性原子方式」へ注目が集まっています。Google Quantum AI社が、超伝導方式に加え中性原子方式の開発開始を発表しました。
- 中性原子方式は、複数のレーザーで原子を冷却・整列し量子ビットとして用いる量子コンピュータであり、大規模化に有利な方式です。当社は本方式に使用するレーザーの事業化を推進します。
- 中性原子方式に加えイオントラップ型においても多くのレーザーを使用するため、当社のレーザーは両方式への適用を目指した開発を進めています。

【中性原子方式でのレーザー役割と使用波長】

プロセス	役割	使用波長(Yb)
① 冷却 (Cooling)	レーザー光で原子の動きを減速させ、極低温まで冷やして静止	399nm 556nm
② 捕捉・配列 (Trapping)	集光レーザー=「光ピンセット」で原子を1個ずつ固定し、2次元配列を形成	759 nm 532 nm
③ 量子ゲート操作 (Gate Operations)	レーザー光で原子の量子状態を操作し、計算を実行する。	578 nm 649 nm
④ リュドベリ励起 (Entanglement)	原子を高エネルギー状態に励起し、原子間に量子もつれを生成する。量子計算の核心。	302 nm 369 nm
⑤ 読み出し (Readout)	レーザーで原子から蛍光を放出させ、カメラで計算結果を読み取る。	556 nm



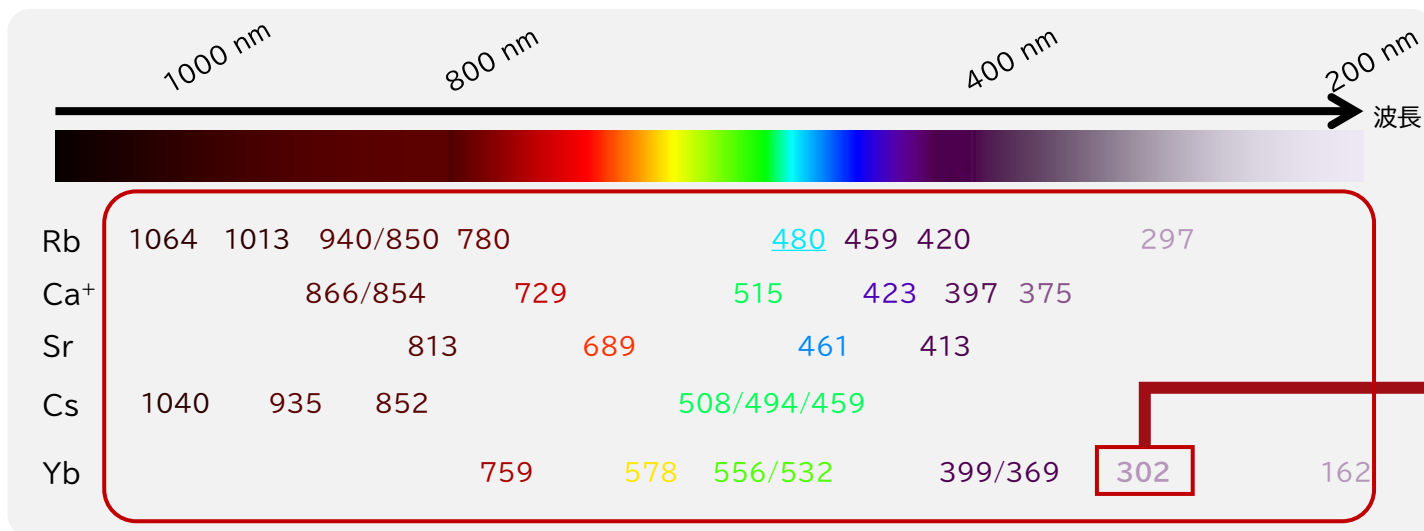
Nejira Pintul, "Towards Programmable Neutral Atom Arrays with Alkaline-Earth-Like Ytterbium for Quantum Computing and Simulation" (2025)

新領域 | 量子①量子コンピュータ向けレーザ

OXIDE

- 量子コンピュータは多くの波長のレーザを必要とします。当社はVexlum社(フィンランド・半導体レーザメーカー)と戦略的パートナーシップを締結し、当社の波長変換技術と同社の高出力半導体レーザ技術を組み合わせた、新しい量子コンピュータ用レーザの創出に取り組んでいます。
- 第一弾として、Yb中性原子型量子コンピュータで量子演算の核心を担う302nm高出力レーザを製品発表しました。深紫外域で世界トップの出力と長寿命を実現し、既に量子コンピュータ各社から引き合いを頂いております。
- 今後は、量子コンピュータで必要とされる幅広い波長領域へ製品ラインナップを拡充してまいります。

【量子コンピュータで用いる原子・イオンとレーザの波長】



OXIDE × **VEXLUM**
 「深紫外レーザ」 × 「シードレーザ」

【Vexlum社と戦略的パートナーシップを締結】

OXIDE × **VEXLUM**

量子コンピュータ用302nmレーザ

製品概要

Frequad-K
 Yb系量子アプリケーション向けCWレーザ
 波長 302 nm

- ・ 狭線幅CW 302 nm
- ・ ≥500 mW の高出力
- ・ 卓越したビーム品質 (M² < 1.2)
- ・ 長期にわたる安定動作

OXIDE

新領域 | 量子①量子コンピュータ向けレーザ

OXIDE

- 当社は、Quantum Denmarkのサプライチェーン・パートナーシップ・プログラムの第一号メンバーに選定され、欧州量子イノベーション・エコシステムの一員となりました。これにより、欧州の量子エコシステムの一員として多様なパートナーと実装・事業化を見据えた議論が可能となります。
- 欧州は、米国や日本を中心とするアジアに加え、量子技術の研究開発組織や企業の多くが存在する世界的な拠点となっています。当社は、Quantum Denmarkとの連携により、具体的な共同開発プロジェクトへの参画や顧客獲得による事業化を推進します。



※ Quantum Denmark : 欧州の量子技術先進国の一つに位置づけられるデンマークが量子技術の商業化・国際連携を推進するために設立した国際的ハブ組織です。サプライチェーン・パートナーシップ・プログラムは、デンマークの戦略の一つである量子技術の強靱なバリューチェーンを国内に形成することにあり、その目的のため有望な企業をメンバーとして選定し、Quantum Denmark のネットワークにアクセスし活動する機会を与える仕組みです。

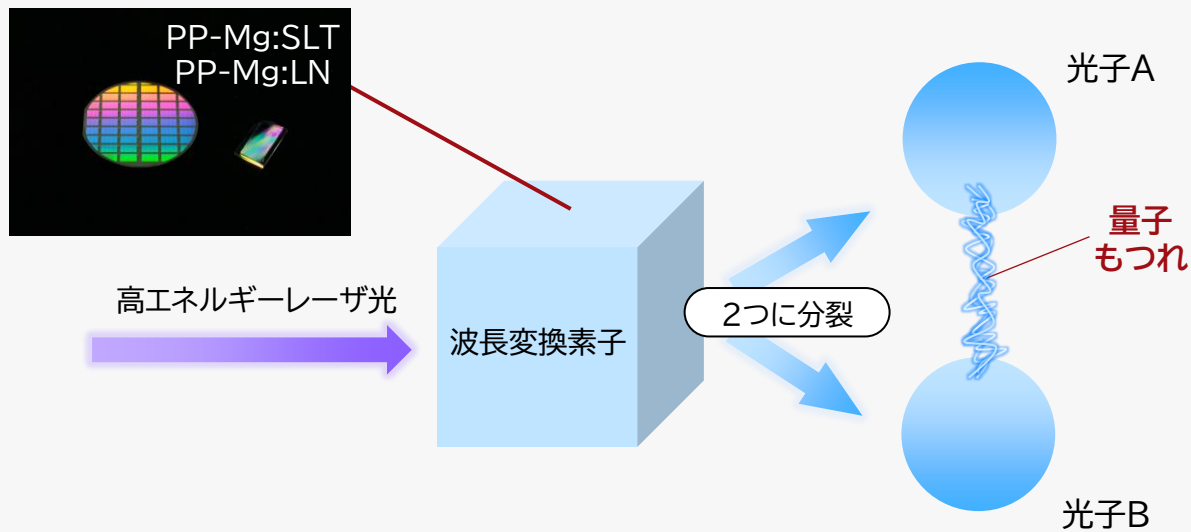
新領域 | 量子②波長変換素子・量子もつれ光子対光源モジュール

OXIDE

- 「量子もつれ状態」は、非線形光学結晶などの波長変換素子にレーザー光を入射し、1つの光子を2つの低エネルギー光子に分裂させることで作ることができます。
- 当社では、量子もつれを生成する量子モジュールの開発・販売を行っております。加えて、量子通信や光ネットワークにおいて重要な役割を担う波長変換素子についても提供しており、幅広い用途での需要拡大が見込まれています。

量子もつれとは

離れた場所にある2つの粒子が一体の状態として振る舞い、一方の状態を測定するともう一方の状態も瞬時に決まる現象。



量子もつれ光子対光源モジュール

■ EPS-SN

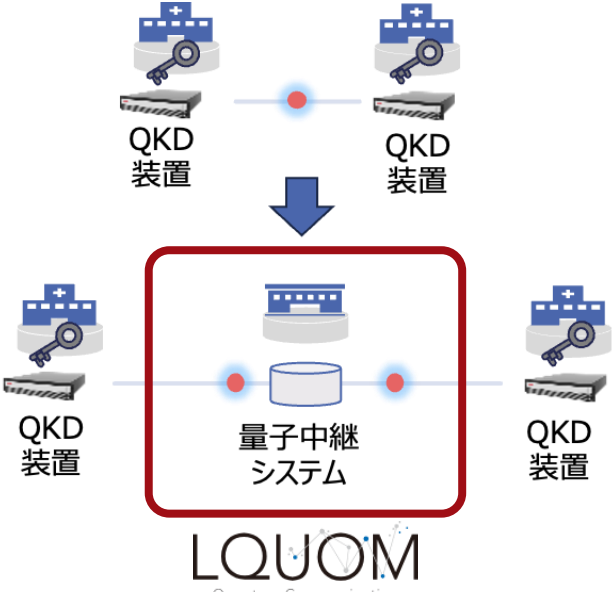


■ EPS-PS



新領域 | 量子③量子暗号通信 LQUOM社との事業提携

- 当社は量子通信のコア技術である波長変換素子、量子もつれ光源、量子メモリ結晶を保有しています。
- 当社が出資している横浜国立大学発スタートアップLQUOM社は、当社技術を活用し長距離量子暗号通信を可能にする量子中継機を開発しています。
- 量子暗号通信(QKD:量子鍵配送)に関して、LQUOM社および東芝社は、量子中継技術を用いた長距離QKDシステムに関する共同研究契約を締結しました。※これまでLQUOM社の製品は、量子もつれを用いた方式を対象としていましたが、本共同研究により、量子もつれを用いないシステムとの接続による用途拡大も可能となります。
- 今後は、長距離通信の実現を目指す世界各国のQKDプロジェクトを事業対象としてまいります。



量子鍵配送(QKD)の長距離化に向け、東芝社と共同研究契約を締結

概要

量子中継器のソリューションとして期待されている、次世代のQKDの長距離化に向けた技術的課題および実現性について検討します。
現実に存在する課題に対する解決策として、研究フェーズから実証フェーズへの進捗が期待されています。

LQUOM社の役割

スタートアップとして国立大学法人横浜国立大学が保有する技術を基に量子中継システムに関する方式を検討。



04. サステナビリティ

サステナビリティの考え方と取り組み

■ 経営理念に基づき、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目的としてサステナビリティ方針を定めています。

サステナビリティ方針

1. 当社は、「世の中にない、また敢えて他社ができないものに取り組む」ベンチャー精神をもとに社会課題を解決する技術・製品を開発し、人々や地球環境に貢献していきます。
2. 当社は、当社の技術が社会に与える効果や影響を正しく認識し、高い品質と安全性を兼ね備えた製品を世に送り出します。
3. 当社は、新しい付加価値を迅速かつ効率的に創り出すため、オープン・イノベーションを推進します。
4. 当社及び当社役職員は、「良き企業市民」として地域社会と連携して持続可能な社会の実現に向けた課題の解決に取り組みます。
5. 当社は、すべての役職員が持てる能力を最大限発揮できるよう、働き方の改革や職場環境の改善を進めるとともに、教育の機会を提供していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



サステナビリティ活動 中期目標

■ 当社事業と関係する社会課題・メガトレンドを抽出し、マテリアリティの特定及び優先施策を実施しています。

施策検討プロセス

Step1

メガトレンド・社会課題の
リストアップ

- グローバルメガトレンドや、ISSB、FTSE、MSCI等のグローバル評価機関の評価基準を基に、メガトレンドや社会課題を幅広くリストアップ
- さらに、主要な機会・リスクを整理し外部専門家による当社内での取組評価と課題の整理を行い、36項目に絞る

Step2

当社にとっての
重要度の評価

- 当社に関連性の高い課題を抽出するとともに、産業・当社固有の課題などを追加し、経営陣と討議を実施
- 整理した項目について、主要な機会・リスクを整理し、「当社にとっての重要度」と「社会・ステークホルダーにとっての重要度」で評価

Step3

マテリアリティの特定と
施策・KPIを検討

- マテリアリティ案と関連する項目の社会課題の選定に至るプロセス、KPIについて役員との意見交換を行いながら決定
- 重要度の高い項目について、機会・リスクや取り組みの関連性を考慮し、施策・KPIを検討

マテリアリティと中期目標

■ マテリアリティ項目について、機会・リスクや取り組みの関連性を考慮し、施策・KPIを検討しております。

当社の強み	現状からマテリアリティ特定へのアプローチ	マテリアリティ	中期目標
大学、研究機関と単結晶技術に関する強いパイプがあり、共同研究や人的交流の機会を持つ	1. 最先端製品で豊かな未来社会に貢献 <ul style="list-style-type: none"> 単結晶を核とした製品を開発し、未来社会に寄与 脱炭素社会に向けた省エネルギー技術、製品の研究開発 安全かつ高品質な製品・サービスの提供 	1. 最先端製品を生み出す製品開発力 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>9 産業と経済活動の革新をつくる</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> コア技術に基づく新規事業の展開 環境に配慮した製品の開発
	2. 社会の発展・貢献に寄与できる社員の成長支援 <ul style="list-style-type: none"> 社員の安全と健康を維持し、働きやすい環境を提供 研究開発を通じて、社会の発展・貢献に寄与できる社員の採用と育成 グローバル環境に応じたキャリア志向と成長支援 	2. 人材の価値を活かす組織風土 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>8 働きがいのある経済成長を</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 研究、開発を支えるコア人材の育成・採用 社員の成長を支援し、企業価値向上へつなげる 従業員の健康と安全、多様性への配慮
	3. 豊かな地域資源と共にグローバルに生きる次世代人材へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> 地域に貢献する活動 次世代を担う若い世代への応援 	3. 地域社会への特色ある貢献活動 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>8 働きがいのある経済成長を</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> グローバル思考の養成 地域社会との共生 科学の力で未来ある子供たちを応援

Environment 気候変動



方針

事業活動によるCO₂排出量を削減し、当社製品の利用による社会のCO₂排出量も削減することで、地球環境負荷の低減に貢献します。

目標

- エネルギー損失を低減し、社会のCO₂排出量削減に貢献する次世代パワー半導体材料の研究・開発を推進します。
- 事業拡大に伴うCO₂排出量増加が見込まれる中、生産効率向上、省エネ設備の導入等により事業活動によるCO₂排出量を抑制します。

主な取り組み

- 社会のCO₂排出量削減に貢献する技術開発
 - 次世代パワー半導体材料(SiC単結晶、β型Ga₂O₃単結晶)
エネルギー損失を低減し、電力利用効率の向上を通じてCO₂排出量削減に貢献
 - 光電融合・PIC向けTFLN
データ通信の低消費電力化を実現し、データセンター・通信インフラのエネルギー効率向上に貢献
 - 量子技術向け製品
エネルギー最適化や高効率材料開発を可能とし、社会全体のエネルギー消費削減に寄与
- 事業活動におけるCO₂排出量削減
 - 継続的な生産効率の向上、省エネ設備の新規導入や高性能機への切替え
 - CO₂排出量算定クラウドサービス導入による、各工場の排出量見える化
 - 再生エネルギーの導入
- 経済産業省GXリーグ基本構想への参画

Social 人的資本



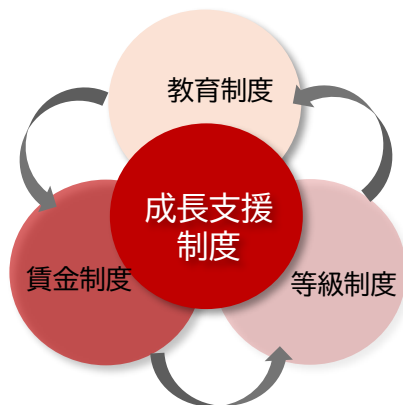
当社の戦略人事は、社員を「人的資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことを目指しています。創業25周年を機に「行動指針」を制定しました。全社員が共通の価値観と行動基準を持つことで当事者意識と組織の一体感を高め、エンゲージメントの向上につなげています。

行動指針浸透のための「対話会」

経営トップと社員が直接語り合う「Harbor Club」を開催し、行動指針の意図を丁寧に伝え、社員が日常的に実践できる共通理解の醸成を目指しています。

人事制度「OGS」の導入

社員一人ひとりが成長を実感し、会社の成長・業績向上に貢献できる仕組みとして「成長支援制度」を中心に4つの仕組みで構成された人事制度「OXIDE Growth Support for all employees:OGS」を導入しています。



研究・開発を支える人材の採用・育成

➤ 博士課程了社員を毎年採用

学生個人が学習・研究してきたテーマに合った既存社員との選抜前交流会を実施し、社員獲得につないでいます。

➤ OVEC (OXIDE Value Enhancement Commitment)

事業部横断組織として、事業部の垣根を越えたテーマ(専門分野、研究、先端技術、生産技術等)を発表し、定期開催の会議で議論する機会を設けています。大手企業や研究機関で活躍された社員がアドバイザーとなり、企業価値向上に直結しています。

➤ サクセッションプランの導入

将来の経営を担う幹部人材の見極めと育成計画を検討し、計画的な後継者育成に取り組んでいます。

Social 社会貢献活動



教育支援活動

次世代を担う人材を育てるための教育活動を様々な場面で支援し、より良い社会づくりを目指しています。

地域社会活動

事業活動を通じて雇用創出や地域社会の発展に貢献しています。また、周辺地域の学校との交流を通じ、未来ある子供たちを科学の力で応援する活動をしています。

グローバル社会への取り組み

海外インターンシップ生を積極的に受け入れ、多様な価値観を尊重し合うグローバルな企業文化の醸成に取り組んでいます。

2026年2月期の主な活動実績

- 山梨YMCAインターナショナル・チャリティーランへの協賛およびチャリティーバザーへの出品
- 公益財団法人山梨みどり奨学金への寄付
- 山梨理科クラブへの寄付
- ロボコン山梨への協賛
- 山梨県立大学リカレント教育プログラムへの参加
- 地域の学校へのオープンハウス(会社見学会)の実施
- 海外インターンシップ生の積極的な受け入れ



Governance



方針

経営理念のもと、当社の全てのステークホルダーを尊重し、株主価値の向上に努めます。

主な取り組み

- 社外取締役の多様性・独立性
 - 様々なバックグラウンドを持つ、性別、国籍の異なる社外取締役を選任し、広範な視点から経営を監督しています。
- 成長投資の意思決定・審議体制
 - 研究開発費および設備投資については、財務規律を踏まえ、担当部門における十分な検討を前提に、執行役員会において事業性・成長性・リスク等の観点から審議を行い、投資判断を行っています。
 - さらに、取締役会において当該投資の妥当性や進捗状況を監督することで、成長投資に対する規律と透明性を確保しています。
 - また、新規製品開発案件については、「NPRP(New Product Review Panel)」において技術、事業性、リスク等を多角的に審議し、経営陣の関与のもと、成長機会の最大化と投資判断の健全性を両立しています。
- リスクマネジメント・内部統制体制
 - 内部統制グループを中心に、業務の有効性・実効性の強化、財務報告の信頼性の確保、リスク管理、法令遵守の徹底に取り組んでいます。



05. 財務・リスク情報

2026年2月期 通期実績

OXIDE

■売上高 100億4,000万円(予想対比13億2,700万円増収、前期比16億4,500万円増収)

■営業利益 5億4,200万円(予想対比1億3,300万円増益、前期比4億1,600万円増益)

(単位:百万円、%)

項目	26年2月期※1					当初通期 予想	予想比※4	25年2月期 通期	前期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期				
売上高	1,787	2,363	2,206	3,682	10,040	8,713	+ 1,327	8,394	+ 1,645
営業損益	▲ 72	▲ 117	▲ 68	801	542	409	+ 133	126	+ 416
営業利益率	▲4.0%	▲5.0%	▲3.1%	21.8%	5.4%	4.7%	+ 0.7%	1.5%	+ 3.9%
研究開発費	465	241	251	244	1,203	1,330	▲ 127	1,296	▲ 93
EBITDA※2	154	108	165	998	1,427	1,278	+ 148	1,145	+ 281
EBITDAマージン※3	8.6%	4.6%	7.5%	27.1%	14.2%	14.7%	▲ 0.5%	13.6%	+ 0.6%

※1 「2025年3月～2026年2月末」の会計年度を指します。

※2 営業利益に償却費(減価償却費・のれん償却等を含む)を加えた数値

※3 EBITDA÷売上高

※4 修正前(2025年4月14日開示)時点の当初通期予想との比較値となっております。修正予想(2026年1月28日開示)につきましては売上高9,900百万円、営業利益460百万円となります。

2027年2月期 業績予想(連結)

- 売上高は、前期比でほぼ横ばいの98億2,900万円の見込みです。
オキサイド単体の売上高では、前期約86億円から今期約98億円となり、前期比約15%の増収見込みです。
- 営業利益は、過去最高の9億3,300万円となる見込みです。
- 営業利益率は、連結除外および既存事業での収益性向上が寄与し、前期の5.4%から9.5%まで上昇する見込みです。

(単位:百万円、%)

項目	27年2月期						
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	26年2月期 通期	増減
売上高	2,251	2,409	2,369	2,800	9,829	10,040	▲ 211
半導体	1,282	1,639	1,725	1,756	6,402	5,002	+ 1,400
ヘルスケア	428	410	487	526	1,851	1,997	▲ 146
新領域	541	359	157	518	1,575	3,040	▲ 1,465
営業利益	181	78	247	427	933	542	+ 391
営業利益率	8.0%	3.2%	10.4%	15.3%	9.5%	5.4%	+ 4.1%
研究開発費	299	241	266	236	1,042	1,203	▲ 160
EBITDA※1	352	262	439	628	1,681	1,427	+ 252
EBITDAマージン※2	15.6%	10.9%	18.5%	22.4%	17.1%	14.2%	+ 2.9%

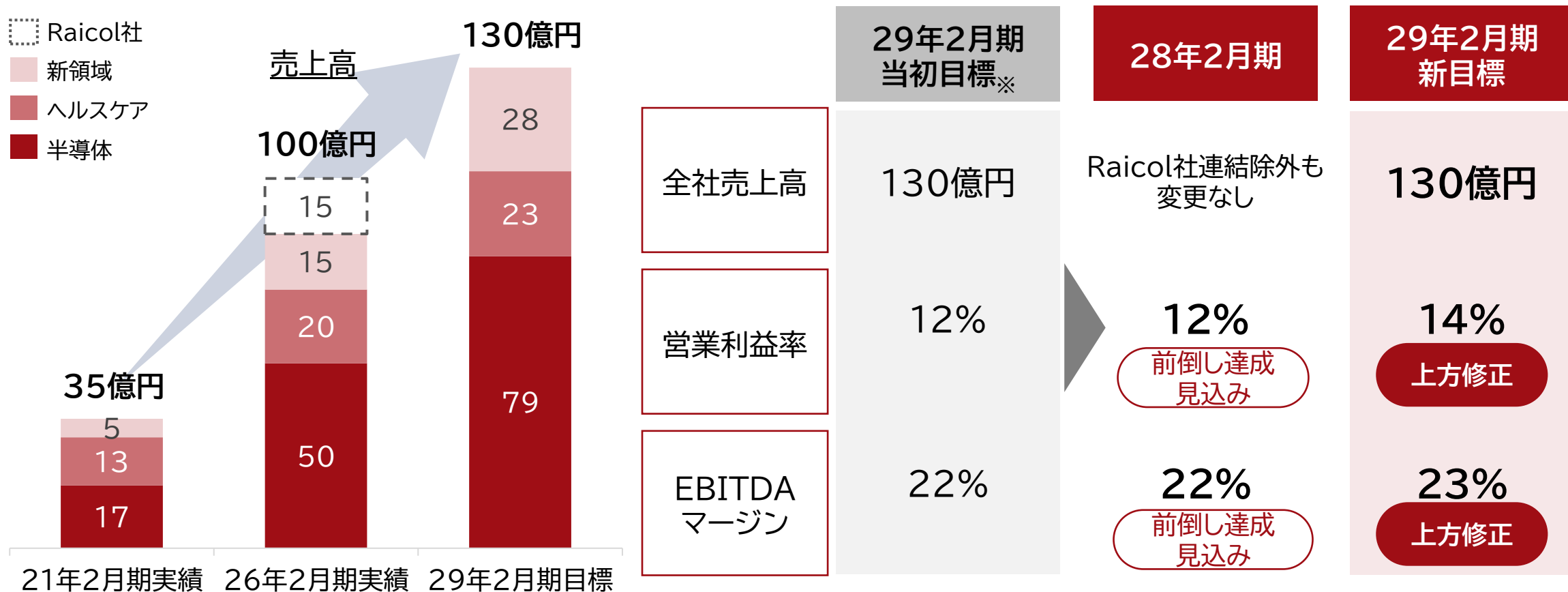
経営指標

- 当社では営業利益率とEBITDAマージンを主要な経営指標としております。
- 目標値はそれぞれ、営業利益率10%、EBITDAマージン20%です。

経営指標	目標値	選定理由
営業利益率	10%	日本の製造業の経営分析をする上で広く利用されている指標の為、営業利益率を経営指標としています。
EBITDA マージン	20%	キャッシュ創出力を測る指標として、国内外の企業との比較において広く利用されており、EBITDAマージンを経営指標としています。

中期経営目標

- Raicol社株式譲渡による売上高減少は、半導体および新領域の成長で補完し、2029年2月期の売上目標130億円を維持します。
- 営業利益率の当初目標は12%ですが、1年前倒して2028年2月期に達成予定です。このため、2029年2月期の目標値を上方修正し、14%といたします。EBITDAマージンも同様に上方修正し、23%といたします。

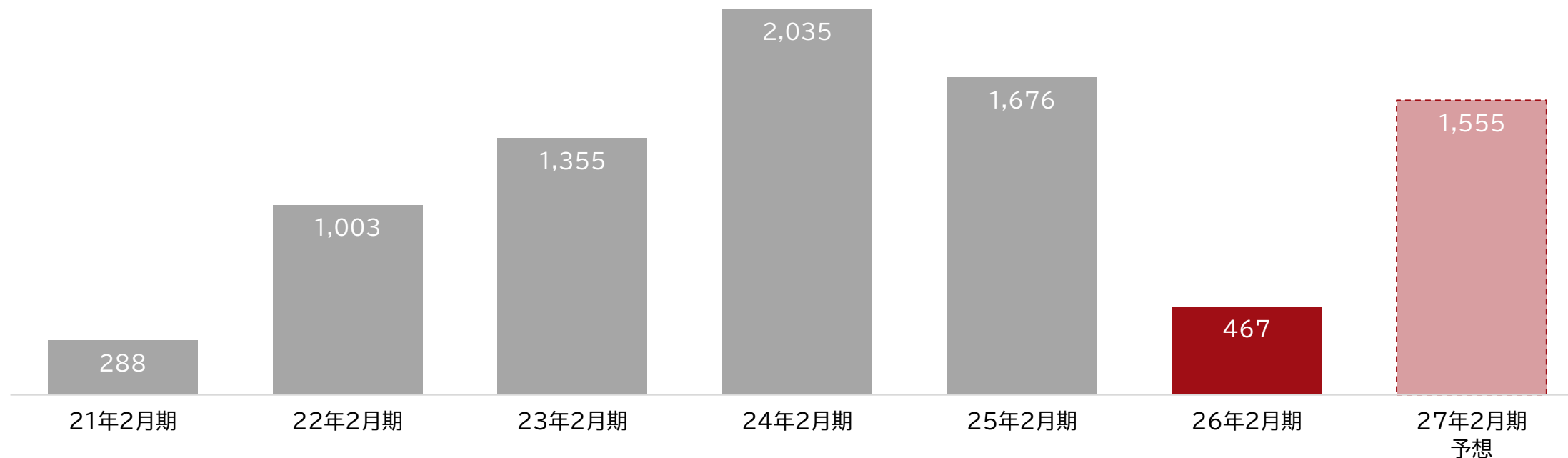


【設備投資費】

- 設備投資費を大幅に圧縮し、4億6,700万円となりました。
- 将来の成長を見込んだ過年度の大型投資が奏功し、既存事業における増収増益に寄与しました。
- 2027年2月期は、量子・データセンター・光電融合・微細加工など新たな成長分野に向けた設備投資を計画しています。

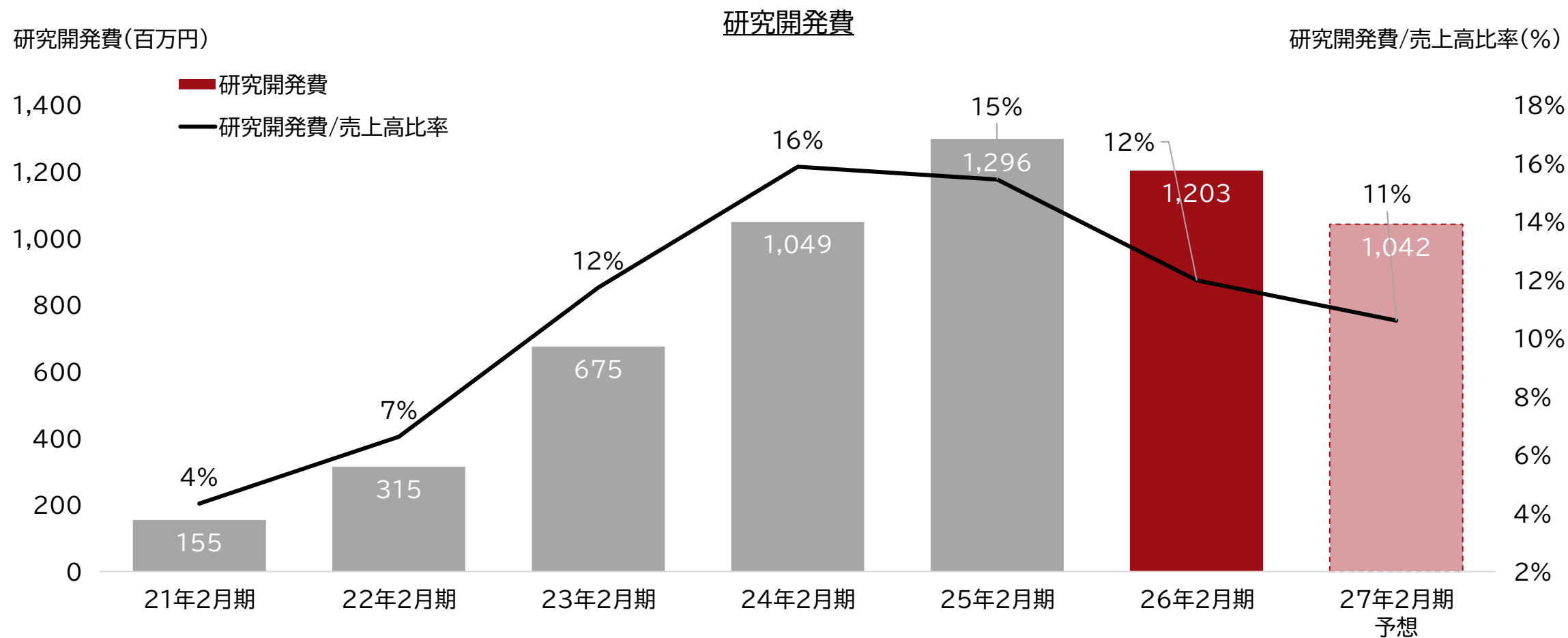
設備投資費

(単位:百万円)



【研究開発費】

- 将来の成長が期待される半導体・量子・データセンター・パワー半導体分野に注力し、研究開発費は12億円超となりました。
- 成長に求められる研究開発投資と、収益性向上のバランスを重視しております。



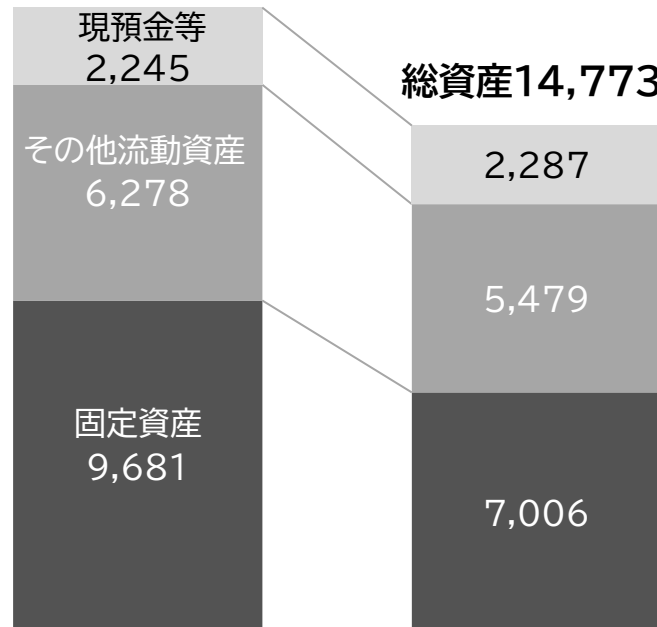
連結貸借対照表

- 株式売却により、Raicol社の資産負債が連結BSから除外され、総資産が前期比34億3,300万円減少いたしました。
- 2026年2月期の営業キャッシュフローを原資に有利子負債を前期比28億2,700万円圧縮し、財務体質の改善を進めました。
- 主要な財務指標の有利子負債の重さを示すNet Debt/EBITDAは7.1倍から3.7倍と前期比約半減となっております。

資産

(単位:百万円)

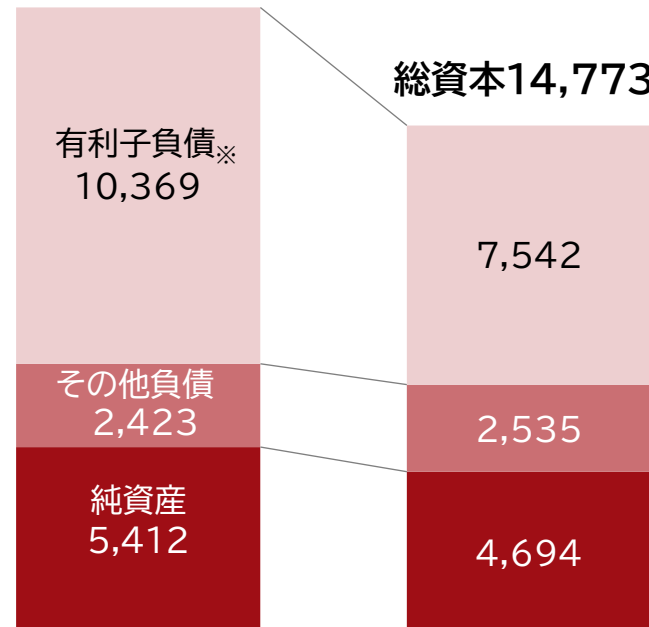
総資産18,206



負債・純資産

(単位:百万円)

総資本18,206



主要財務指標2期比較

(単位:百万円、倍、%)

項目	25年2月期	26年2月期	前期比
総資産	18,206	14,773	▲ 3,433
Net Debt (有利子負債-現預金)	8,124	5,255	▲ 2,869
Net Debt/ EBITDA	7.1倍	3.7倍	▲ 3.4倍
負債資本倍率 (Debt Equity Ratio)	1.9倍	1.6倍	▲ 0.3倍
自己資本比率 (Equity Ratio)	29.7%	31.8%	+ 2.1%

25年2月期末

26年2月期末

25年2月期末

26年2月期末

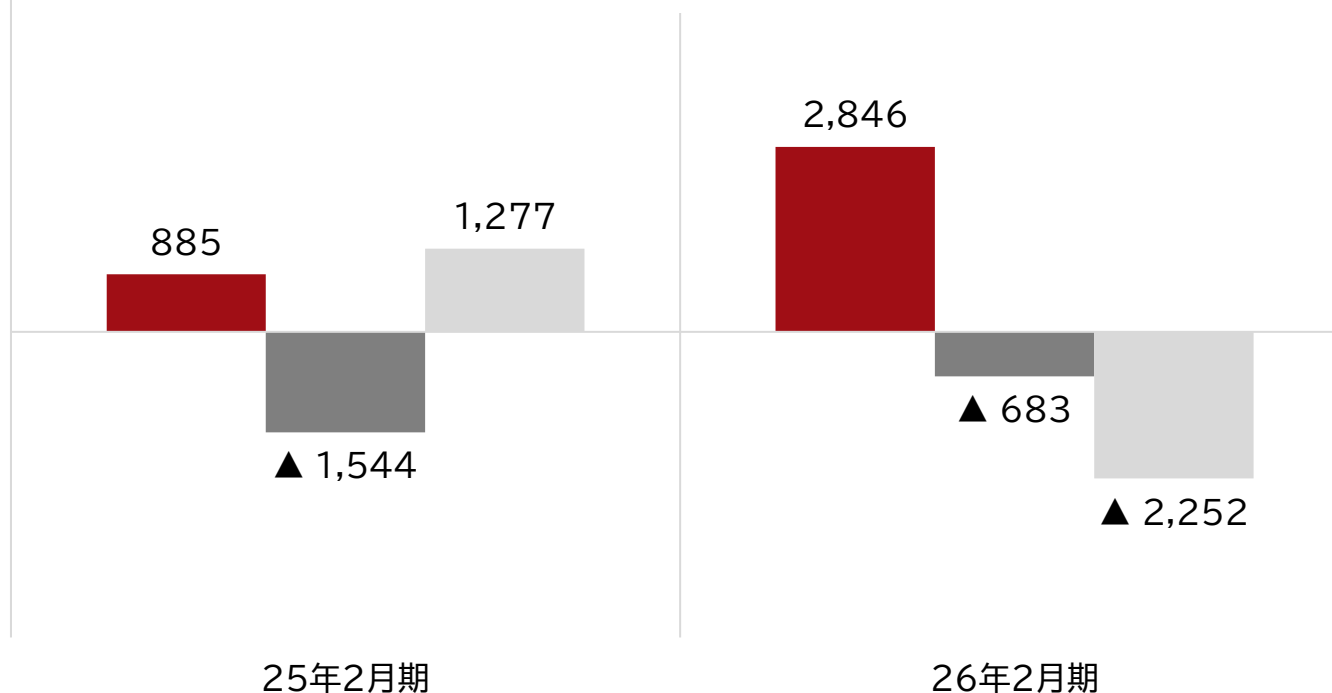
連結キャッシュフロー

- 収益性の改善により営業キャッシュフローが大幅に増加し、キャッシュ創出力が強化されました。
- 営業キャッシュフローを原資として有利子負債を圧縮し、財務体質の改善を進めました。

連結キャッシュフロー

(単位:百万円)

■ 営業C/F ■ 投資C/F ■ 財務C/F



26年2月期の主な内訳

■ 営業キャッシュフロー

- +税引前当期純利益(除:関係会社株式売却損) :724
- +補助金受取 :897
- +減価償却費 :884

■ 投資キャッシュフロー

- ▲固定資産投資 :675

■ 財務キャッシュフロー

- ▲有利子負債削減 :2,415
- +株式発行(SO行使) :174

リスク情報 (1)

■ 当社事業の成長を阻害する特に重要なリスク要因として、以下が考えられます。

顧客動向によるリスク

発生可能性	高	影響度	大	リスク評価/前期比	特に重要/同水準
リスクの内容	当社グループの顧客層は、半導体、医療機器、量子、データセンターなど世界各地のメーカーや研究機関に広がっております。さまざまな産業セクターへの営業活動を行い、これら顧客の個別の経営状態の変動による影響を極小化する努力をしております。しかしながら大幅な為替変動、各国の関税政策、地政学的要因などにより、それらの産業全体が業績に悪影響を被る場合があります。当社グループが提供する製品需要は、常に次世代製品の先行開発投資に追随する性格のものであり、顧客での次世代投資、製品転換が遅れることで当社グループの財政状態及び業績に悪影響を及ぼす可能性があります。				
対応策	当社グループは、半導体、医療機器、量子、データセンターなど、幅広い産業セクターへ製品を提供することを強みとしていることから、国内外における経済動向の変化に対して特定の産業に依存しない事業ポートフォリオを更に強化することにより、リスク分散に努めてまいります。				

リスク情報 (2)

特定の取引先への依存リスク

発生可能性	高	影響度	大	リスク評価/前期比	特に重要/同水準
リスクの内容	<p>当社グループの2026年2月期の販売先は、300社超ありますが、そのうち、特定の6取引先に対する売上が、66%となっております。このため、これらの取引先において事業方針・外注政策に関する変化や業績悪化等が発生し当社グループとの取引額が減少した場合に、当社グループの財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>				
対応策	<p>当社グループは事業計画の達成及び将来成長に向けて、顧客ポートフォリオの整理と重点顧客の明確化を継続して行っております。現時点においては、特定6取引先が当社グループの売上高に占める比率は高い水準にあり、これら取引先との取引関係の維持・拡大は、当社グループの成長にとって引き続き重要であると認識しております。</p> <p>一方で、特定の取引先や用途への依存に伴うリスクを低減するため、当社グループでは事業ポートフォリオの多角化を進めております。具体的には、従来の半導体及び医療機器分野に加え、量子、データセンター等の新たな成長分野への展開を拡大することで、用途軸での分散を図っております。</p> <p>また、半導体分野においても、従来の前工程向け欠陥検査用途に加えて、後工程向けの微細加工用途への展開を進めるとともに、販売地域の拡大を通じて地域軸での分散を図っております。これらの取り組みにより、特定6取引先への売上高を維持・拡大しつつも、事業構造としての依存リスクを相対的に低減させながら、全体の売上高の持続的な拡大を目指しております。</p>				

海外事業展開に関するリスク

発生可能性	高	影響度	大	リスク評価/前期比	特に重要/同水準
リスクの内容	<p>材料・部品の調達及び当社グループ製品の輸出等において海外との商取引を行っております。当連結会計年度における売上高のうち、90%超が海外売上高によるものであり、国別では中国向けの売上が最も大きく、次いで米国が主要な販売先となっております。主要取引先の所在国において、予測し得ない税制や法規制など変更、政治・経済情勢の不安定化、テロ・紛争などの勃発、あるいは自然災害などによるリスクが顕在化した場合、当社グループの事業活動及び業績に影響を及ぼす可能性があります。特に、米中における関税政策、輸出管理規制により、中国からの材料の調達、中国への製品出荷、米国への製品出荷に影響を及ぼす可能性があります。同時に、米国から製品購入が難しくなる中国顧客や、中国から製品購入が難しくなる米国顧客から当社グループに対する引き合いも増加傾向にあります。また、ウクライナ紛争やイスラエルを含む中東地域における紛争の長期化等により、地政学的リスクが高まった場合には、国際物流の停滞、取引先の事業活動への影響等を通じて、当社グループの事業環境に不確実性が生じる可能性があります。</p>				
対応策	<p>定期的に事業の状況をモニタリングし、国際情勢、海外経済情勢の変化等によるリスクを踏まえたうえで事業戦略の見直しを定期的に実施するとともに、経営会議や取締役会等において販売対象地域や、事業拠点の状況把握に努めており、情勢の変化に適切に対応しております。</p> <p>イスラエルを含む中東地域の地政学的リスクについては、当該情勢が当社グループの事業及び業績に与える影響を総合的に勘案し、2026年2月期において、イスラエルに拠点を有するRaicol Crystals Ltd.の全株式及び貸付債権を譲渡し、同社を連結対象から除外いたしました。これにより、当社グループ全体としての地政学リスクの抑制を図っております。</p> <p><ウクライナ情勢について></p> <p>当社グループはロシア・ウクライナに拠点を有しておらず、また同地域向けの事業も手掛けておりません。当社グループの主要顧客においても同地域関連事業が大きな比重を占めている状況にはないものと認識しております。従いまして、現時点でウクライナ情勢が当社グループの事業及び業績に大きな影響を及ぼす可能性は低いと判断しております。</p>				

リスク情報 (4)

資材調達によるリスク

発生可能性	高	影響度	大	リスク評価/前期比	特に重要/同水準
リスクの内容	<p>当社グループは、さまざまな原材料や光学部品等を購入して使用しておりますが、その中には特殊な原材料や部品も含まれております。重要なものは複数ベンダーによる購買や在庫積み増し等の対策を講じて安定製造、安定供給に努めておりますが、一部代替が利かないものも存在します。特に、ヘルスケア事業でシンチレータ単結晶の製造に使用する酸化ルテチウムの産出国は中国、オーストラリア等であり、当社グループは中国から調達しております。従って、中国の国家政策等により、その調達に問題が発生した場合には、生産計画に支障が生じ、当社グループの財政状態及び業績に悪影響が及ぶ可能性があります。</p> <p>また、半導体事業の主要製品であるレーザの一部部材については当社グループが求める品質の部材を製造できる企業は国内外でもわずかであるため、当該部材の確保ができなくなった場合には機会損失が発生する可能性があります。また、品質水準を満たす部材を確保できない場合には、歩留率の悪化を招く恐れがあり、これに伴う原材料費の上昇を販売価格へ転嫁できない場合は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>				
対応策	<p>複数ベンダーによる購買、商社等を通じた調達市場動向の早期把握、また在庫積み増し等の対策を講じて安定製造、安定供給に努めております。</p> <p>仕入先が限定される主要部材については、仕入先との綿密な調整など連携強化を図るとともに、調達仕様の見直しや仕入状況の定期的なモニタリングにより、サプライチェーンの安定的な確保に向けた取り組みを推進してまいります。</p>				

リスク情報 (5)

原材料価格の変動によるリスク

発生可能性	高	影響度	大	リスク評価/前期比	特に重要/同水準
リスクの内容	当社グループが製造で使用する原材料の中で、ヘルスケア事業にてシンチレータ単結晶の製造に使用する酸化ルテチウムは、レアアースであります。レアアースの価格は変動が大きく、価格の変動を販売価格に転嫁できない場合には、当社グループの財政状態及び業績に悪影響が及ぶ可能性があります。				
対応策	経営会議や取締役会等においてレアアースの価格動向の把握に努めており、仮に価格変動の予兆を検知した場合には、原材料の前倒し仕入れ等の経営判断を遅滞なく行う体制を構築しております。また原材料価格の上昇を販売価格に転嫁する仕組みの構築も合わせて進めております。				

為替の変動に関するリスク

発生可能性	中	影響度	大	リスク評価/前期比	重要/同水準*
リスクの内容	<p>当社グループは、一部の海外との取引において日本円以外の通貨を用いて行っております。当該通貨の急激な為替変動があった場合には、当社グループの事業に影響を及ぼす可能性があります。</p> <p>*当社グループにおける海外との取引の場合、円安は利益を増加させる傾向にありますが、不安定な為替相場が事業に及ぼす影響という点でリスク水準は低減していないため、前期比同水準と判断しております。</p>				
対応策	当社グループにおける海外との取引の場合は、主要な取引先とは円建てで取引を行っております。また、経営会議や取締役会等において、為替動向の把握に努めており、仮に財政状態や業績に悪影響を及ぼす予兆を検知した場合には、遅滞なく経営判断を行う体制を構築しております。				

なお、その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

本資料の取り扱いについて

- 本資料には、当社に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報をもとに、本資料の作成時点における当社の判断に基づいて記載したものであり、また、一定の前提(仮定)の下になされています。そのため、これらの記述または前提(仮定)は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の結果はこれと大きく異なる可能性があります。
- 本資料に記載されている当社以外に関する情報は、公開情報または第三者が作成したデータ等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について、当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。
- 本資料は、当社の企業説明に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の販売や購入を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」は、2027年5月の開示を予定しています。

The background features a warm sunset sky with soft clouds and several bright starburst light effects. In the center, a hand is shown holding a glowing, spherical digital globe composed of interconnected white lines and dots, representing a network or data structure. The hand is rendered in a dark silhouette, contrasting with the bright light of the globe and the sunset.

OXIDE

豊かな未来を 光の技術で実現する

光の時代と言われる21世紀。

光技術の可能性を追求し、その成果を少しでも早く少しでも多くの社会に還元したい。

それが創業以来変わらないオキシサイドの願いです。